

---

# 友清 里づくり計画

---

*Action of the Countryside*

-Tomokiyo-

---



2000年9月  
友清里づくり協議会

## 里づくり計画の策定にあたって

友清里づくり協議会 会長 萩原 曲夫

里づくり計画策定にあたり、関係者の皆様にはご支援を賜りありがとうございます。

当地区は谷深い集落のため周囲の都市化からまぬがれ、豊かな自然環境と静かな生活環境が守られてきました。しかし、地域の周辺では、西神南ニュータウンの拡張や神戸母里線の開通など徐々に変化しつつあります。また、米の生産調整が厳しくなる中、農業の兼業化が進み、農業者の高齢化は否めない状況となってきました。

そこで、里づくり協議会を設立し、地域の将来を住民が話し合い協議することとなりました。

特に当地域はほ場整備を行っていないため、下水道は設置しているものの道路、河川、ため池といった農村の基本的な基盤整備が未整備であり、ハード面では他地区に比べて遅れていると言えます。

その反面、周囲には先祖が残してくれた豊かな自然環境が今も残っており、また、地域の結びつきが深く、昔ながらの伝統行事を継承していること、農作業の共同化や機械の共同利用などを既に実践しているように団結力があること、地域の地場産業としての観光柿園があることが里づくりを進める上で大きな誇りとなりました。

今後は観光柿園を核として観光事業を発展させ、農業振興を図ると共に、農業経営の法人化（KK組織）も必要と考えています。そして後継者たちがこの村に将来残ってくれる、あるいは戻ってきてくれる魅力のある地域づくり、子どもから年寄りまでが安心して住める生活環境づくりを進めて参ります。座談会ではご婦人の立場から「子どもの公園」等の意見が提案されたことは大変意義あることと受け止めています。

今回の里づくり計画の策定にあたり、ご指導、ご助言を賜りました神戸芸術工科大学の齊木先生を始め、神戸市西農政事務所の方々には大変感謝をいたしております。

里づくりはこれがスタートラインであり、今後はできるところから取り組み、少しずつでも前進したいと考えています。

今後とも皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 友清まるごと田園博物館

神戸芸術工科大学 教授 齊木 崇人（さいきたかひと）

「友清」は、その名前のごとく、神戸市の田園の魅力我代表する集落です。

集落の入り口から見る丘に囲まれた風景は、万葉の時代から「いりの」とよばれる、美しい別世界を作っています。

10年前に初めて「友清」を訪れた私は、集落の隅々まで、庭園のように見事に手入れされた風景に感動を覚えました。特に、丘の上の柿園から見下ろす風景は水田と家並と竹林が美しく調和していました。

その後、神戸市の「里づくり」が始まり、私はいつか「友清」の里づくり計画を手伝いたいと思っていました。

この度ようやく、その念願がかない、10数回に及ぶ「里づくり」の会議や、現地調査、見学会が実施される中で、「友清」の魅力がさらに明らかになりました。

今日の魅力的な友清の姿ができた背景には先人の方々の積み上げがあることを忘れてはなりません。柿園に代表されるように、半世紀をこえる共同作業の伝統は、他の集落の良きモデルになりました。もし、柿園がなかったら友清の魅力は半減していたと思います。山や斜面は利用されず、他の集落に見られるように荒廃していたと思います。美しい里づくりの集落は隅々まで土地が利用されている事が原則であり、その代表が「友清」です。

その伝統は、米づくり、ゴルフ場への土地活用、農業施設の共同建設へと受け継がれ、そして今、新たに「友清の里づくり」が始まっています。

私は、里づくりで「友清」程美しい集落は他にはなく、「友清」はそのまま「まるごと田園博物館」であると考えています。

友清のますますの発展と、世代を越えて持続的に里づくりが展開される事を願っています。

### 里づくりの解説

神戸市の貴重な魅力の一つに、北区・西区に広がる田園地域があります。

この田園地域の人々が撫育する農地は、神戸市の総面積の約10%（5,500ha）を占め、農業粗生産額は政令指定都市の中でも上位を誇ってきました。（農振地域10,512ha）

しかしながら、近年、農業従事者の高齢化や減少と相俟って、市街化調整区域の農地が虫食いの的に転用され、資材置き場、廃車置き場、駐車場等が増加し、農業を持続する環境や貴重な緑地資源が破壊されつつあります。

そこで、神戸市において、都市近郊農業と田園環境を確実に保全するために「人と自然との共生ゾーン条例」が制定されました。（1996年4月）

「人と自然との共生ゾーン条例」は既存の都市計画法や農業振興地域整備計画の他に、神戸市独自の土地利用規制として「農村用途区域」を指定するもので、計画づくりの主体は『里づくり協議会』が担います。

この『里づくり協議会』の特色には、協議会のメンバーに非農家も加わることや、「農村用途区域」の計画に農振地域以外も積極的に取り組むこと、さらには用途区域の変更をする場合に意向を反映する権限もあります。

## 目次 友清まるごと田園博物館

1. 現況と課題		
1) 集落の概要		1
2) これまでの作業		4
3) アンケート調査結果		7
4) 友清の現況と課題		9
2. 友清里づくり計画		
1) 計画の視点と考え方		13
2) 土地利用計画		17
3) 里づくり計画（計画シート）		18
A. 共働の農業	友清が一体となった農業システム	
(1) 共働の集落営農体制 - ストックを生かし共に働くシステム		20
(2) 観光農園	友清全体が観光農園	22
(3) 農産物直売所	バラエティーと季節感のある農産物の提供	24
(4) 市民農園	地区外住民との交流・農業指導	26
B. エコロジカルなエネルギー生産	エコロジカルビレッジ友清	
(1) 風力発電	友清のエコロジカルなシンボル	28
(2) 太陽光発電	全戸の屋根に太陽電池	30
C. 集落環境整備	集落の拠点とネットワーク	
(1) 公園の整備	子供の公園，丸山公園等のネットワーク	32
(2) あずまやの整備	各所にあずまやを点在させる	34
(3) 桜並木整備	友清川，農道沿いに四季の彩	36
(4) 道路整備	農道を整備する	38
(5) 住みやすい生活環境	お年寄りも住みやすい町	40
D. 豊かな水環境の整備	水を介したネットワーク	
(1) 友清川の整備	ため池から下流まできれいな友清川	42
(2) 蛸の里づくり	蛸を友清川に乱舞させよう	44
(3) 丸山の親水公園整備	丸山とため池の一体的整備	46
(4) 井戸を掘る	豊かな水環境整備	48
4) 計画プログラム		50
3. 友清里づくり計画 資料		
1) 里づくり協議会委員会名簿		
2) 里づくり協議会規約		
3) 分科会メンバー表		
4) 意向調査結果表		

（出典） 写真：齊木研究室 他

イメージスケッチ：齊木研究室

『ふるさと子供ウィズダム』『ふるさと子供グラフィティー』（絵・文：原賀隆一）

1. 現況と課題

1) 集落の概要



友清地区は櫛谷町の北東部に位置し、友清川は、明石川の支流である櫛谷川の源流ともなっている。北東部は櫛谷町寺谷に隣接し、東南部は西神工業団地（ハイテクパーク）がある。

南西部は櫛谷町福谷と西神南ニュータウンが拡張される予定となっており、集落入り口に西神南ニュータウンから下りてくる道路が接続される計画である。

集落は山間にあり、南向きの斜面で日当りはよく、友清川に沿って集落を形成している。

谷の奥に抜ける道路はなく行き止まりとなっているため、今なお豊かな自然が保たれている。

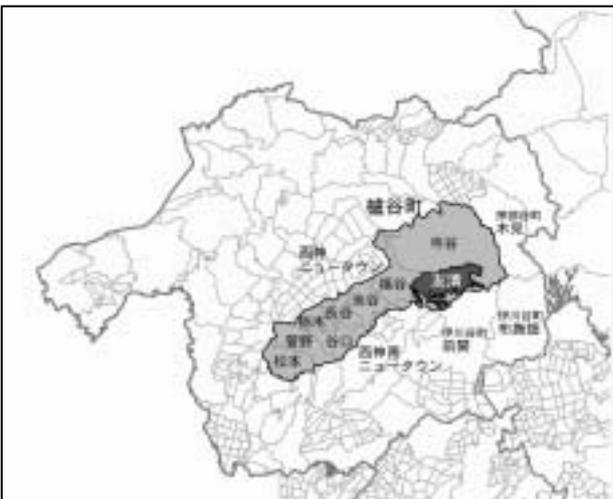
集落南の入り口は県道神戸加古川姫路線が東西に走っていたが、このたび神戸母里線が新設され、東は西神工業団地、又は伊川谷町布施畑、前開方面、西は西神ニュータウン、押部谷町高和に通じている。

集落の南東部は大神戸ゴルフ場で大きく占められており、友清集落と密接に関係している。

旧友清村は播磨国明石郡のうち慶長5年は姫路藩領、元和3年から明石藩領であった。

明治22年櫛谷村の大字となり、昭和23年からは櫛谷町を冠称している。昭和22年神戸市垂水区、昭和57年からは神戸市西区となる。

寺院は、天台宗新長谷寺で、本尊十一面観音は明石三十三ヶ所の十九番観音である。



## 農家人口等状況

項目 \ 年	80年	85年	90年	95年
総戸数	29	29	28	30
総農家数(戸)	27	27	26	25
専業	3		5	3
1種兼業	3	2	3	1
2種兼業	21	25	18	21
経営耕地(a)	2,066	1,944	1,967	1,975
田	1,712	1,671	1,720	1,648
畑	112	53	15	60
樹園地	242	220	232	267
酪農(戸)	2	1	1	1
総人口(人)	189	193	179	173
男	92	95	88	88
女	97	98	91	85
農家人口(人)	137	120	113	113
男	61	56	57	57
女	76	64	56	56

(農業センサスより)

国勢調査より(ゴルフ場内含む)

## 農業生産の状況

## 平成11年度 水田利用状況

	作付け面積(a)
水田面積	1,687.2
こしひかり	927.8
転作実施面積	759.4
柿	27.0
野菜	207.3
地カソルガム	398.5
大豆	43.2
景観コスモス	47.2
その他	36.2
転作率	45.0(%)

転作等確認野帳より

## 集落の近代史

昭和 40 年頃までは農業収入のみの生活形態で、主に稲作、タケノコ、スイカ、柿、松茸等が主な収入源であった。中でもスイカは、地の利を生かして遅出し、共同選果により マル友スイカとして、神戸市場、大阪市場でも評価は高かった。

しかし、昭和 40 年にゴルフ場開発の話が持ち上がり、開発に踏み切ることとなった。開発は山林、竹林、柿畑、田等で約 100ha と大きな面積となった。契約はほとんどが賃貸契約であった。

ゴルフ場開発により集落の様相も一変した。ほとんどの人がゴルフ場へ勤務し、農業収入から農外収入へ移行した。また、個人の資産や村有林の賃貸収入で金銭面での余裕が出来た。

昭和 50 年に経営コストを下げる為、機械の共同利用の話が持ち上がり、昭和 51 年にライスセンターを自力で設置した。運営も共同作業による施設利用で、集落内の結束強化につながった。

平成元年には友清墓地の拡張整備事業、平成 8 年には「美しい友清川ホタルの住める友清川」を合言葉に、集落ぐるみで合併処理浄化槽の設置事業に取り組み、今ではホタルも飛び交うようになった。

## 2) これまでの作業

里づくり協議会は平成11年10月に結成されてから、1月に1回のペースで会議を開催し、計画の策定について協議を重ねた。

座談会では、アンケートで出された意見のポイントについて3班に分かれ現地調査を行い、白地図に自由に意見を書き込む方式をとった。また、現在の土地利用状況を詳細に調査し、地図上に落とす作業を行った。

そして神戸芸術工科大学の齊木研究室のアドバイスにより、地域の将来のあり方について4つのテーマが挙げられた。これらのテーマについて世帯の代表者がいずれかの分科会に所属し、テーマごとに協議を進めた。このテーマ別分科会は計画策定後も計画の実現に向けて進めていく小委員会でもある。



友清里づくり計画策定経過

日時	会議名	出席者	協議事項
11.10.18	里づくり協議会	協議会委員 J A 神戸市西 神戸芸術工科大学 西農政事務所	・ 共生ゾーン条例の概要 ・ 規約の承認，役員の選出
11.11.16	役員会	協議会役員 西農政事務所	・ アンケート調査項目の検討 ・ スケジュール
11.12. 3 ～ 12.18	調査票配布 調査票回収	アンケート調査実施  集 計	
12.1.26	里づくり協議会	協議会委員 神戸芸術工科大学 西農政事務所	・ アンケート調査結果報告 ・ どんない集落にしたか意見聴取
12.2.13	現地調査	地域住民約 30 名 神戸芸術工科大学 西農政事務所	「友清の環境資源と魅力の発見」 ・ 地域点検マップ作成
12.3.18	現地調査	協議会役員 神戸芸術工科大学 西農政事務所	・ 地域の現状の詳細調査 ・ 意見交換
12.3.24	役員会	協議会役員 神戸芸術工科大学 西農政事務所	・ 提出意見のまとめ ・ 計画提案等
12.5.18	里づくり協議会	協議会委員 神戸芸術工科大学 西農政事務所	・ 里づくり計画素案 ・ 分科会の結成 ・ 先進地紹介
12.6.16	里づくり協議会	住民約 30 名 神戸芸術工科大学 西農政事務所	・ 分科会協議，発表 ・ 計画の詳細協議
12.7. 9	里づくり協議会	住民約 30 名 神戸芸術工科大学 西農政事務所	・ 分科会協議，発表 ・ 計画実施プログラム
12.7.26	先進地調査	住民 34 名 神戸芸術工科大学 西農政事務所	・ サントリー高砂工場～大河内町～南光町
12.8.11	役員会	役員 西農政事務所	・ 農村用途区域と施設設置基準 ・ 土地利用計画(案)
12.9.30	里づくり協議会	住民 神戸芸術工科大学 西農政事務所	・ 里づくり計画について



### 3) アンケート調査結果

アンケートは集落内の20歳以上の居住者及び集落外に出ている20歳以上の後継者を対象にして行った。回収率は高く95.7%であった。

調査内容は、回答者の属性、生活環境に関する事項、今後の地域整備に関する事項、農業経営の現状、今後の農業経営に関する事項の5項目である。(資料のとおり)

#### 生活環境

- ・生活圏は西神ニュータウン方面が多く、自家用車の利用がほとんどである。
- ・この集落の住み良さについて「住み良い」又は「ふつう」という人が8割であった。「住みにくい」又は「非常に住みにくい」と感じる人は16名いた。
- ・農業との関わりでは、何らかの形で関わっている人が半数、ほとんど関わりのない人は1/3であった。
- ・農地が広がっていることは自然に恵まれていてよいと評価する人は多い。  
逆に宅地に比べ有効利用されていないという意見は21名(1/4弱)にもものぼった。
- ・通学路の安全、大雨時の浸水やため池の決壊に不安がある。街路灯が少なく危険を感じている。
- ・健康や衛生面では、害虫が多いことや畜舎の不衛生、不法投棄ゴミへの不満が高い。
- ・交通の便が悪いことは日常の不便さの中で一番にあがっている。
- ・その他、日常の買い物の便が悪いこと、医療施設が遠いことについての不満度が高い。
- ・子どもの遊び場がないことについては7割以上の人々が不満を感じている。
- ・植栽や花壇を増やしていきたいという景観に対する意識の高さを感じられる。

#### 今後の地域整備

- ・周辺の都市化については、日常生活が便利になってよいとするプラスの意見と交通量が増えて事故が心配だとするマイナス意見の両面が見える。
- ・ため池をいくつか統合してはどうかという意見があった。
- ・今後の地域整備のあり方として保全志向の人は7割で、2割が開発志向であった。
- ・水質が悪く害虫が発生していることが指摘されている。
- ・河川の整備と道路の整備は大きな課題と受け止められる。
- ・温泉を掘るといった意見がいくつか出ている。エネルギー自給も提案されている。
- ・ほ場整備を望む声もある。

#### 農業

- ・農業後継者は22戸のうち、5戸で確定、10戸は不確定、7戸に後継者がいないという状況であった。
- ・5年先の農業経営規模は、半数以上で現状維持、5戸の経営主が規模縮小又はやめたいと

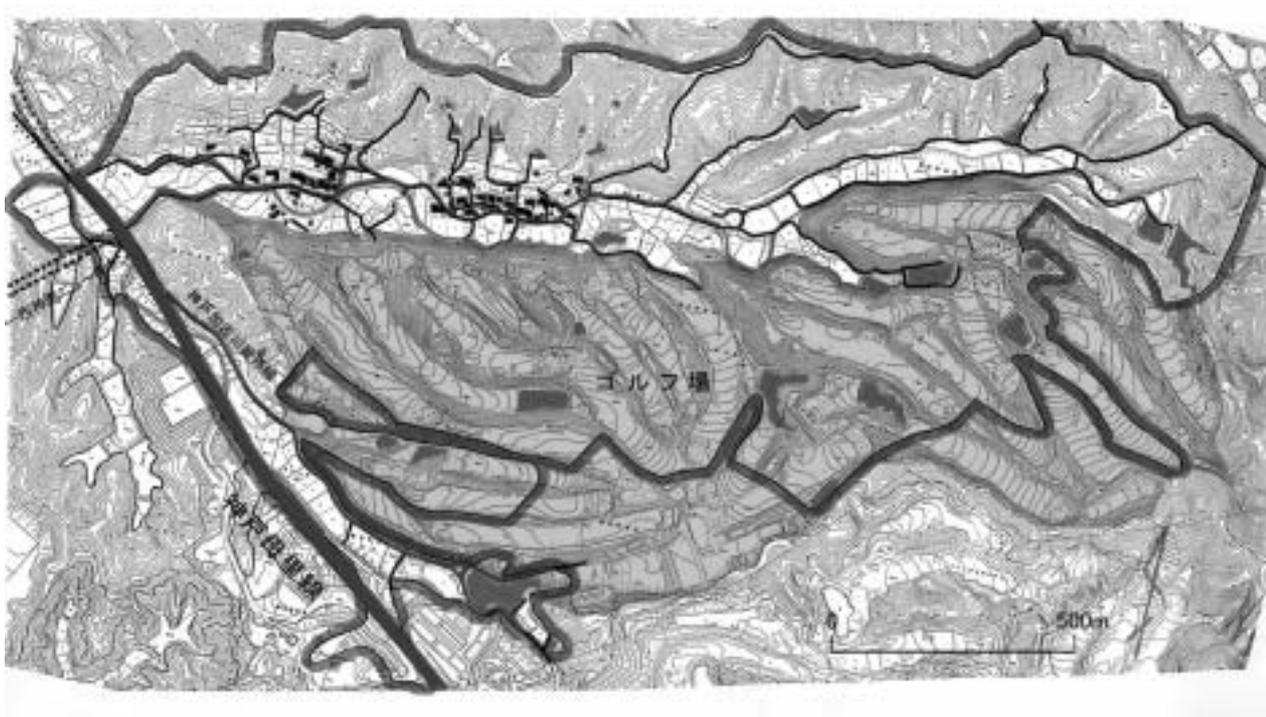
答えている。観光農業や貸し農園へ内容を変える意向がみられる。

- ・ 流通，出荷の意向として産地直売施設の設置を望む声が高い。
- ・ 農地で困っていることは，農道が狭い，農地の分散，不整形，進入路がない，日当たりが悪いなどで農業の基盤整備ができていないことが大きい。
- ・ 貸し農園については，発展させていきたいという意見が多いが，景観が悪いとの問題点があげられている。
- ・ 観光農業については，今ある観光柿園のほかに集客できる観光資源を求めている。
- ・ また他品目も視野にいれ，広く地区外住民と交流し知名度をあげたいという思いもある。しかしこの場合，今まで閉鎖されていたことで保たれていた豊かな自然環境や静かな農村環境を失うことが懸念される。

アンケート調査票（一部抜粋）

The images show a multi-page survey questionnaire. The pages are arranged in two rows of three. Each page contains a mix of text, checkboxes, and tables. The tables appear to be for recording responses to different questions, with columns for 'Yes' (はい) and 'No' (いいえ). The text is in Japanese and includes instructions for respondents and various questions related to agricultural practices and infrastructure.

#### 4) 友清の現況と課題



##### 土地利用

ほ場整備はされておらず，河川についても整備されていない。ほ場整備がされていないことで集落内の道路が未整備で，生活環境でも営農環境でも改善が必要である。

下水道は平成 8 年合併処理浄化槽を集落で設置している。

集落の奥は谷が 2 つに分かれており，北側の谷は入口から 2 km と奥深い。

南側ゴルフ場は大きな面積を占めているが，境界には松が植えられ景観はよい。

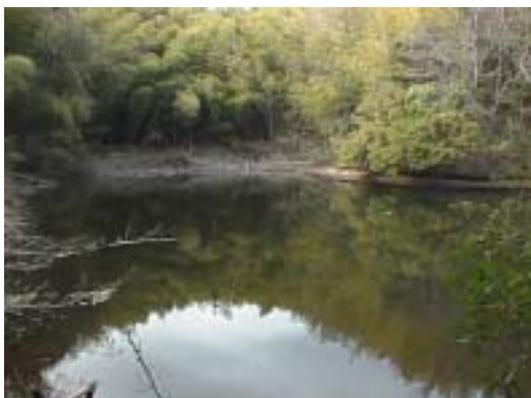
県道神戸母里線が新設されたことにより神戸加古川姫路線との間の大山谷が道路に挟まれた形で残り，農地として利用価値が低下した。

県道の西側は西神南ニュータウンの拡張が計画され市街化区域に編入される。また，ニュータウンから下りてくる道路が設置される予定である。

この開発で道路より西の谷は造成されることとなり，入り口付近の環境変化は大きいと予想される。これまで交通が不便で生活に支障をきたしていたが，今後はこれを契機に生活環境を向上させていくことが可能となる。



公会堂前からの風景



細谷池



竹林が多くある



### 営農環境

ライスセンターが昭和51年に設置され、水稻栽培の合理化が図られた。組合員は26人で、共同で育苗、収穫、乾燥調製を行っている。水管理、防除、肥培管理などは個人が行っており、田植は、機械の共同利用のみとなっている。品種はこしひかりに統一し、高品質で食味の良い米を販売している。アンケートでは、ライスセンター出務でのロスタイムが指摘されている。

観光柿園は組合員数12人で、栽培管理は個人である。シーズンでは入園客を各園に振り分けている。JAの観光園芸協会に参画し、ピーアールに努めている。現在は年間4,000人の入園者があり、更に入園者数を伸ばしたい。

谷の入り口は平坦で、幹線道路沿いは特に農業外の活用も期待されている。

一方、集落の奥は営農以外にないが、農産物の価格の低迷が農家の生産意欲を低下させている。

農道や橋が狭く、道路の接続が悪いため、大型機械の搬入が困難で、ライスセンターの出務者が苦勞している。営農環境では、特に農道を整えることが今後農業を継続するために必要である。

集落入り口に直売所を設置し、家庭菜園など潜在的にある農業生産力を収入に結び付けたい。

### 生活環境

交通の便が悪く、日常の買い物や病院の通院にも支障をきたしている。特に車の運転のできない高齢者にとっては住みにくい環境といえる。徒歩圏内に利便施設を必要としている。

今後は豊かな自然環境を保持しながらも、利便施設の誘致を図り、日常生活のレベルを都市レベルに近づけたい。

ため池の決壊や夜間の通行の危険に不安があり、整備を図りたい。これは、昭和52年のまちづくりでも指摘されており、引き続いての懸案事項となっている。

## 2. 友清里づくり計画

### 1) 計画の視点と考え方

#### 「友清まるごと田園博物館」

- 友清はニュータウンに隣接し、交通量の多い幹線道路にも面して立地する集落であるが、谷の口が狭く、奥の深い谷に立地しているために桃源郷とも言える平穏で豊かな田園風景が守られている。
- 早くから農業の共同化の動きがあり、ライスセンター等の共同施設がある。  
昭和40年頃には友清で作られた丸友ブランドのスイカが大阪神戸市場をにぎわせたこともあり、農業に対する住民の愛着は特筆すべきものがある。  
しかし、農業者の高齢化や減反重視の農業政策に伴う労働力の減少は否めず、放置された農地もある。また、ほ場整備がなされていないため、農地への大型農業機械の進入が困難な農地も存在する。
- 住民からは放置されている農地については共同耕作や芋掘りなどの観光農園化に期待する意見が多く、農地全般については将来に向けて良好な田園風景を保全するために、あえてほ場整備は行わないが、今後更に深刻になるであろう労働力不足及び次世代への継承のために農業機械が安全に通行できる農道の整備が急がれている。
- 豊かな農村風景のシンボルとして風力発電や太陽光発電施設などのエコロジカルなエネルギー生産を望む声がある。
- 良好な自然環境と生活環境保全のため、蛭が生息する水系はため池や里山とともに保全し、子どもたちが安全に遊ぶことのできる公園や住民が憩うことのできる場所を確保する。

以上のような状況に基づき友清里づくり計画は、「友清まるごと田園博物館」と位置づけ、友清の持つ地形的特徴、およびこれまで積み上げられてきた農業生産の仕組みや生活環境、伝承してきた文化等を評価し、それらを友清の持つストックとして最大限に生かすことを目標とした。他の地域から訪れた人だけでなく、友清の住民も楽しめる場所や仕組みを友清の各所にちりばめたものを目指す。

里づくり計画を策定するにあたり，以下の4つのテーマを設け，テーマ毎の分科会で，友清の住民が活発な意見を出し合った。

A. 共働の農業

友清住民が一体となった農業のシステムの構築，友清の持つ潜在力を生かし、共に働き共に潤う

B. エコロジカルなエネルギー生産

エコロジカルで自立的なエネルギーを友清全体で生産し、日本一環境に優しい農村を目指す

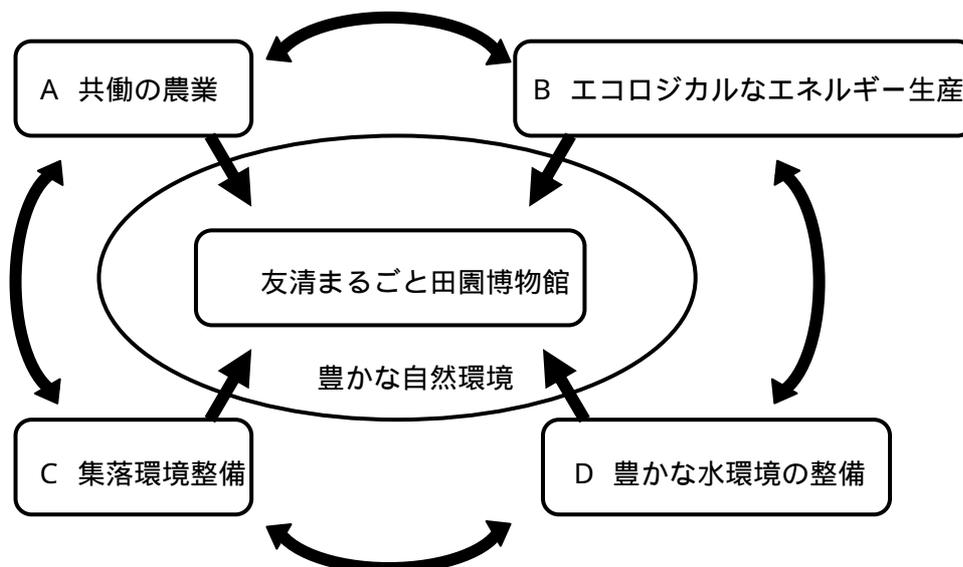
C. 集落環境整備

四阿（あずまや）、公園、桜並木、農道の整備を行い、友清を回遊できるネットワークの構築

D. 豊かな水環境の整備

蛸やシジミの生息する友清川をより美しく

4つのテーマがそれぞれ独立して計画を策定するのではなく，それぞれの関連性をうまく整理し，友清全体としてのネットワークを持った計画とした。



2) 土地利用計画 (別図のとおり)

- ・ 集落は、2つのかたまりがあり、宅地の中の農地も取り込んで集落居住区域とする。
- ・ 山林は環境保全区域、農地と観光果樹園は農業保全区域とする。特に必要な施設として公園、農産物直売所は位置づけを行った。
- ・ 集落より外れた大山谷は農業的な利用価値が低く、他用途利用を見込んだ特定用途 B 区域を設定する。
- ・ 集落入り口の交差点より西側は、交通量も増加することが予想されるため、特定用途 A 区域を設定し、積極的に活用を図る。
- ・ 貸し農園については、集落の奥も検討しているが、場所の特定は今後の協議事項とする。
- ・ 神戸母里線沿道の土地利用に際しては、使用者に景観に配慮するよう義務づける。

里づくり計画を策定するにあたり、以下の4つのテーマを設け、テーマ毎の分科会で、友清の住民が活発な意見を出し合った。

A. 共働の農業

友清住民が一体となった農業のシステムの構築、友清の持つ潜在力を生かし、共に働き共に潤う

B. エコロジカルなエネルギー生産

エコロジカルで自立的なエネルギーを友清全体で生産し、日本一環境に優しい農村を目指す

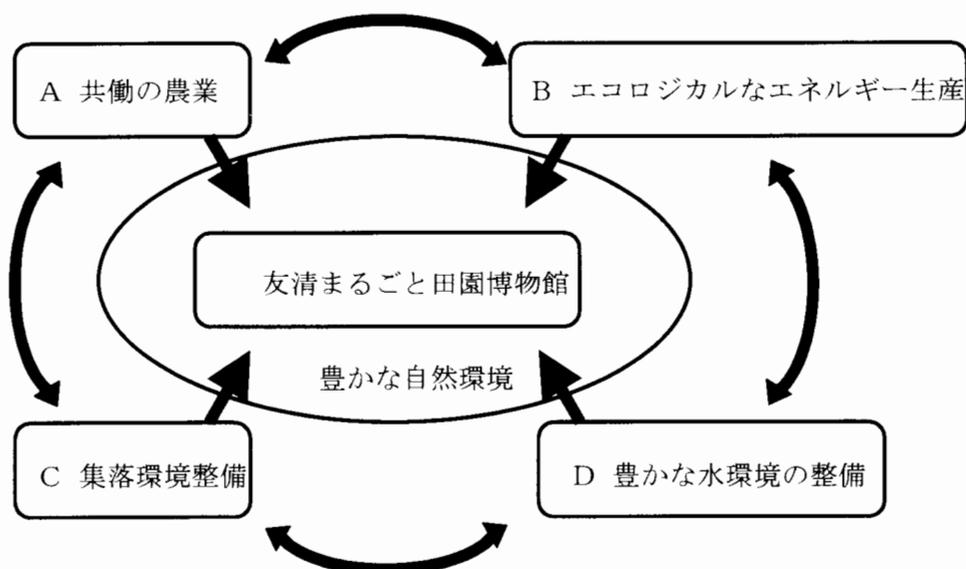
C. 集落環境整備

四阿（あずまや）、公園、桜並木、農道の整備を行い、友清を回遊できるネットワークの構築

D. 豊かな水環境の整備

蛍やシジミの生息する友清川をより美しく

4つのテーマがそれぞれ独立して計画を策定するのではなく、それぞれの関連性をうまく整理し、友清全体としてのネットワークを持った計画とした。



# 友清里づくり計画図

—友清まるごと田園博物館—

A-1 共働の集落営農体制———ストックを生かし共に働き、競争できるシステム

A-2 観光農園———友清全体が観光農園

B-1 風力発電———友清のエコロジカルなシンボルとしての風力発電

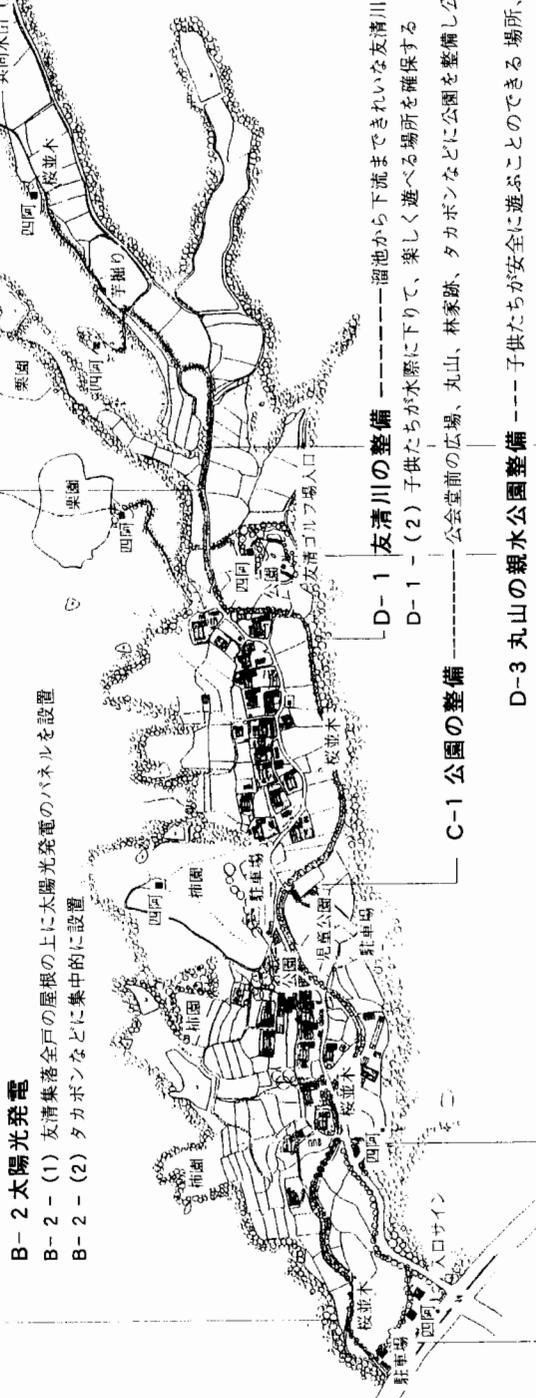
B-1-1 (2) 小型風力発電施設

C-3 桜並木の整備———友清川、農道沿いに桜並木を作る

B-2 太陽光発電

B-2-1 (1) 友清集落全戸の屋根の上に太陽光発電のパネルを設置

B-2-2 (2) タカポンなどに集中的に設置



D-4 井戸を掘る———農業を継続するためには水を確保する必要がある

D-2 虫の里づくり———虫を友清川に乱舞させよう。

D-1 友清川の整備———湖池から下流まできれいな友清川

D-1-1 (2) 子供たちが水際に下りて、楽しく遊べる場所を確保する

C-1 公園の整備———公会堂前の広場、丸山、林家跡、タカポンなどに公園を整備し公園のネットワーク

D-3 丸山の親水公園整備———子供たちが安全に遊ぶことのできる場所、お年寄りが、ゆったりとくつろげる場所をつくる

C-2 四阿の整備———友清の各所に四阿を点在させ友清の拠点とする

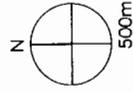
C-2-1 (2) 四阿は友清の木を使い、友清の人たちが自分たちで作る

A-3 農作物直売所———バラエティーと季節感のある農作物の提供

C-4 道路整備———ほ場整備の必要はないが、道路・農道は整備しておく

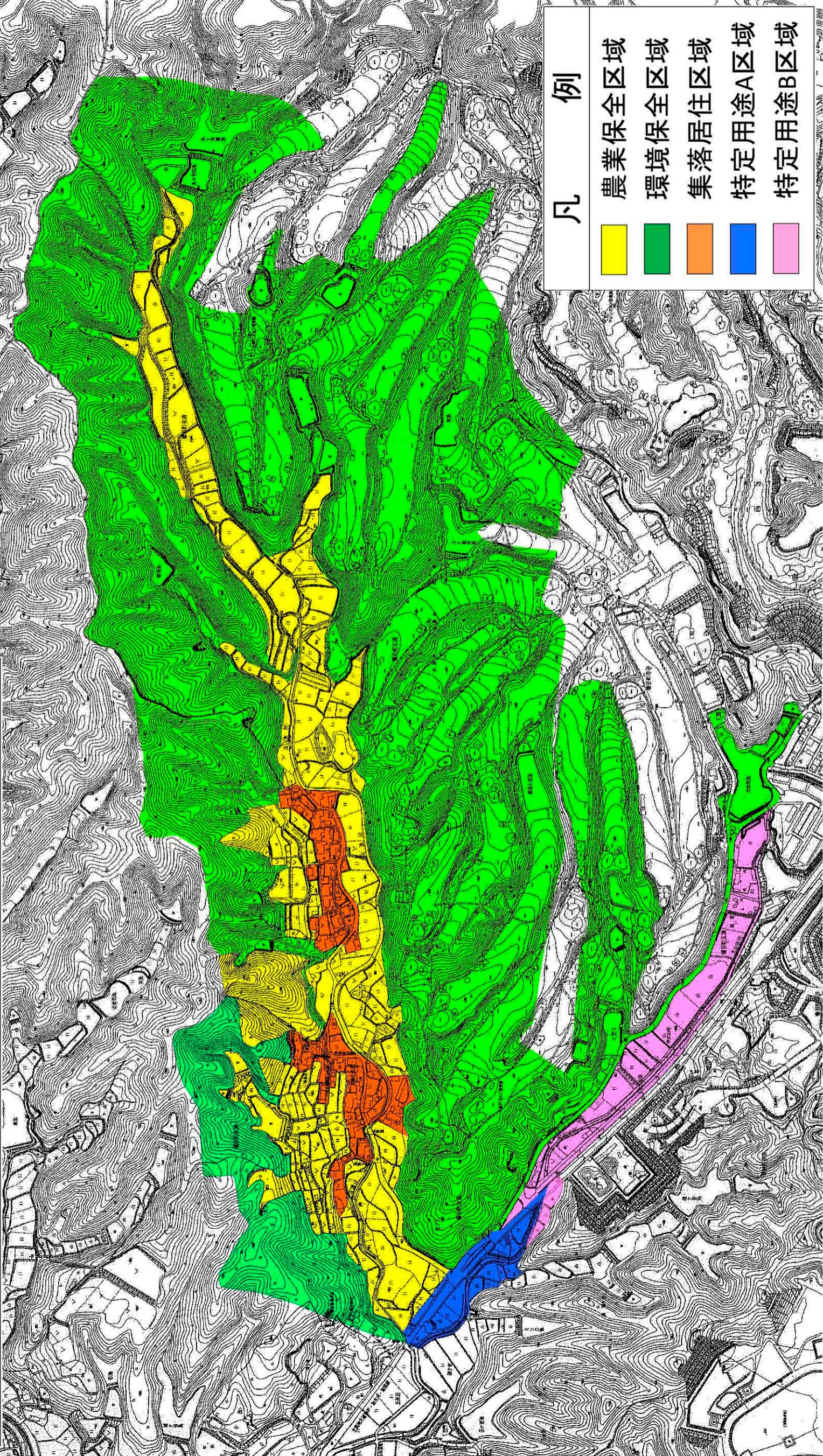
A-4 市民農園———地区外住民との交流、農業指導

C-5 住みやすい環境整備———防犯灯・危険溜池の整備



作成：神戸芸術工科大学齊木研究室

西区 櫛谷町 友清 農村用途区域図 (H27年変更後)



凡 例	
	農業保全区域
	環境保全区域
	集落居住区域
	特定用途A区域
	特定用途B区域

2) 土地利用計画 (別図のとおり)

- ・ 集落は、2つのかたまりがあり、宅地の間の農地も取り込んで集落居住区域とする。
- ・ 山林は環境保全区域，農地と観光果樹園は農業保全区域とする。特に必要な施設として公園，農産物直売所は位置づけを行った。
- ・ 集落より外れた大山谷は農業的な利用価値が低く，他用途利用を見込んだ特定用途 B 区域を設定する。
- ・ 集落入り口の交差点より西側は，交通量も増加することが予想されるため，特定用途 A 区域を設定し，積極的に活用を図る。
- ・ 貸し農園については，集落の奥も検討しているが，場所の特定は今後の協議事項とする。
- ・ 神戸母里線沿道の土地利用に際しては，使用者に景観に配慮するよう義務づける。

3) 里づくり計画 (計画シート)

計画シートの見方

計画の条件・背景

計画の内容

**計画グループ記号**  
各計画を A~D の4グループに分類している。

**計画グループ名**  
各計画の属するグループ名を記してる。

**計画タイトル**  
個々のプロジェクト名を記している。複数の計画を1枚にまとめているものもある。

**計画マップ**  
個々の計画ポイントやエリアを示している。その他計画に関係する現状や調査結果等を示している。

**計画の内容**  
計画の内容を簡条書きで記している。

**地域の特性**  
各計画から見た地域の特性を簡単に記している。

**計画の背景と課題**  
各計画から見た地域の背景と課題を記している。

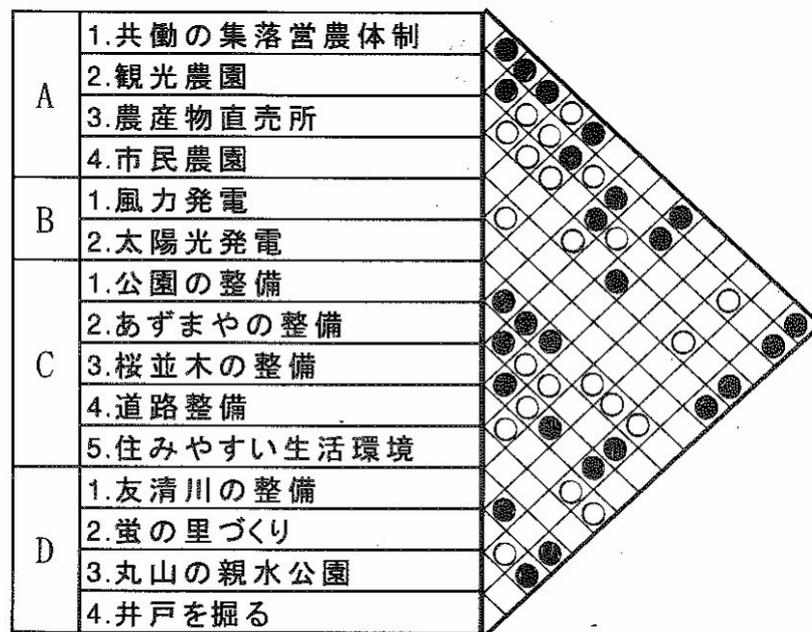
**計画のイメージ**  
計画をイメージ図として示している。また計画に関連した現状を示したものもある。

**他計画との連携**  
他のプロジェクトとの関係を示している。  
強い連携をとるプロジェクト  
関係のあるプロジェクト

他計画との連携

各プロジェクトは、それぞれが独立して計画するのではなく、相互に関連性を持ちながら実施していく必要がある。各プロジェクトの関連性についてはそれぞれのページに示しているが、全体の関連性についてのまとめを次に記す。

他計画との連携



●強い連携をとるプロジェクト

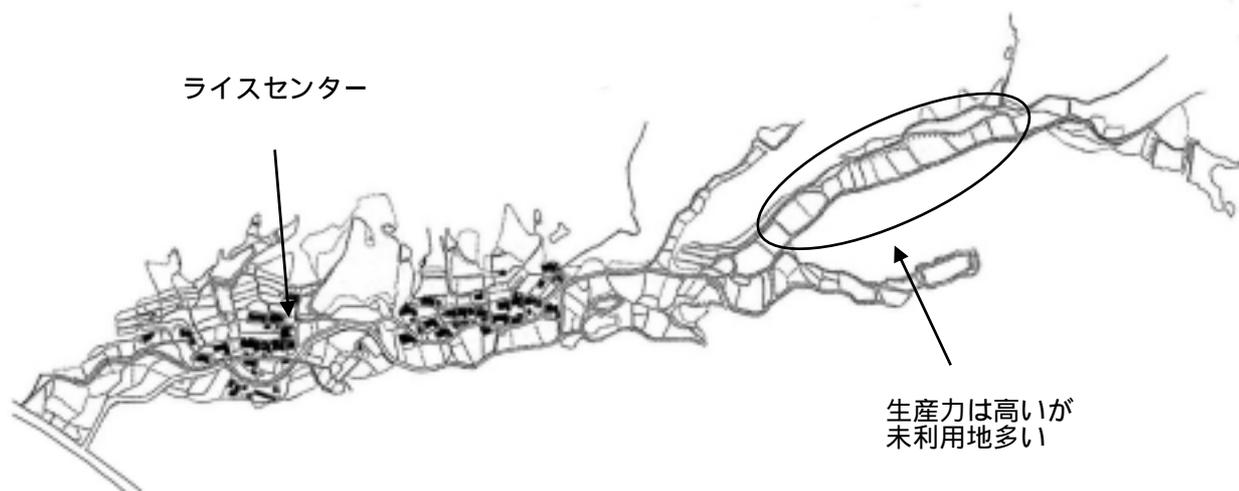
○関係のあるプロジェクト

# A

## 1. 共働の集落営農体制

ストックを生かし共に働き，競争できるシステム

### 1. 計画地区の特性



集落の奥は行き止まりで入り口が狭いという地形的特徴がある。  
ライスセンターが運営されて稲作に関してはすでに集落営農を実践している。

### 2. 計画の背景と課題

ライスセンターという営農組織が既にあり，集落営農の下地が出来ている。

個人の事情で世帯単位では農業の継続が困難な農家も出来てきている。

稲作だけでなく観光部門も集落全体で取り組んでいくことが望まれる。

ライスセンター出務でのロスタイムが指摘されている。

集落の奥の農地は，肥沃で生産力が高いが未利用地が多い。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制	
	2. 観光農園	
	3. 農産物直売所	
	4. 市民農園	
B	1. 風力発電	
	2. 太陽光発電	
C	1. 公園の整備	
	2. あずまやの整備	
	3. 桜並木の整備	
	4. 道路整備	
D	1. 住みやすい生活環境	
	1. 友清川の整備	
	2. 蛍の里づくり	
	3. 丸山の親水公園	
	4. 井戸を掘る	

2. 友清里づ

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

くり計画

---

1) おいしい米がとれる田圃など，現在利用されていない土質のよい場所を，共同で耕作し共同で農産物を販売する。

---

2) 未利用地をなくし，活気ある友清農業を展開する。

転作田を活用し，景観形成，果樹園，芋掘りなどの観光事業に取り組み，農業の省力化を図るとともに収入を得る。

また，利用が困難な農地は，植林を行い，良質の木材を生産して，屋敷の改築やあずまや等共同施設の建築などに利用する。

3) ライスセンターを中心に稲作栽培の効率化を追求し，出務時間の短縮を図る。

将来的にはトラクターの共同利用も検討し，農地の保全と省力化を行う。

4) 農業を継続するためには水を確保する必要がある。また農道を整備する必要がある。



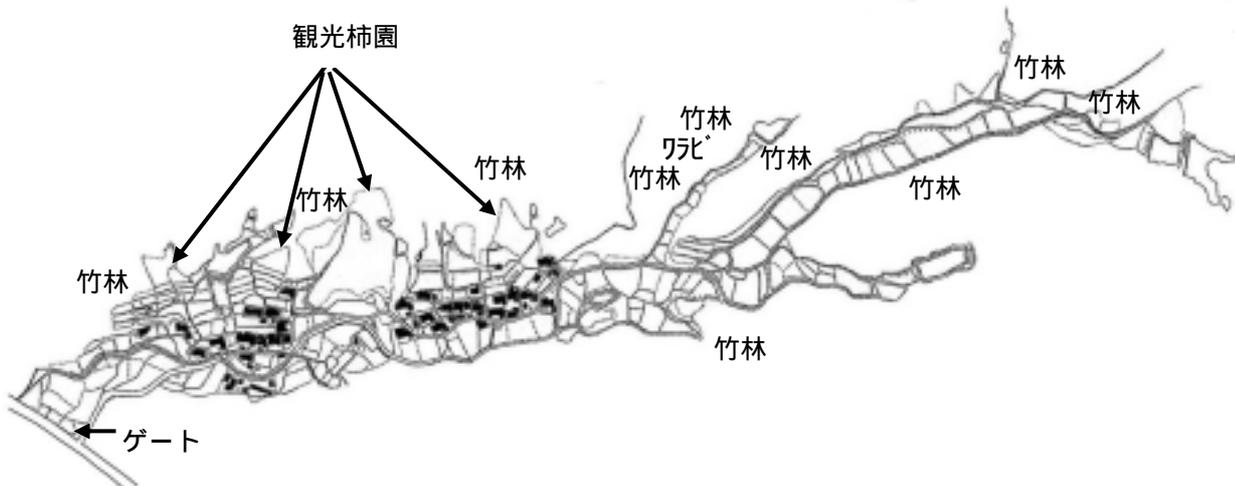
ライスセンターと共同作業

# A

## 2. 観光農園

友清全体が観光農園

### 1. 計画地区の特性



昭和 48 年より観光柿園を開園し，観光事業に取り組んでいる。  
 観光柿園は，12 戸の農家で約 254ha の面積を経営している。  
 西神ニュータウン，西神南ニュータウンに近く，立地条件に恵まれている。  
 自然が豊かで，たけのこや季節の山菜など自然の産物に恵まれている。

### 2. 計画の背景と課題

柿園の入園者数が景気低迷等により減少している。

特産品の柿を地域活性化のため最大限に生かす方法を模索している

柿園のほかに柿と共に友清をアピールできる観光資源を求めている。

転作による休耕田の活用を図りたい。

地形的な閉鎖性を生かして集落全域を観光ゾーンとして整備する。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 螢の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
 関連のあるプロジェクト

- 1) 集落の入り口が明確で、谷沿いに農地が奥深く広がる友清の地形的特徴を生かし、期間限定で友清全体をゲート付きの観光農園として位置付け、豊かな農村を体験できる場所を地区外の人々に提供する。
- 2) 利用者は友清入口周辺に設置された駐車場に車を止め、あずまやにおいて入山料を払う。そこから、地元住民の指示のもと、各園へと向かう。
- 3) 駐車場、トイレ等を整備する。ゴミの処理方法を考える。

## 春

- (1)レンゲ畑...ニュータウンの子どもたちが秋に種をまいたレンゲの花が咲くころ、レンゲ祭を行う。  
集落入口付近の通過する人が目に見えるところに花を咲かせる。
- (2)たけのこ狩り...竹林の整備も兼ね、孟宗竹、ハチク、真竹など、友清各所にある竹林に入り、たけのこ狩りだけではなく、美しい竹林を楽しむ。
- (3)季節の山菜...ワラビ、セリ、フキ等季節の山菜を、友清各所に配置された地元の人々の案内によって、採集する。

## 秋

- (4)柿園.....富有柿、干し柿、幻の柿「百目柿」などバラエティーに富んだ柿を楽しめる柿園とする。  
友清の特産物である柿をもっとピーアールし、来客を増やす。  
特産の柿を少しでも無駄にしないよう柿を用いたオリジナル商品開発に取り組む。  
加工用の渋柿もニーズに合わせて栽培する。
- (5)芋掘り...休耕田を生かし、芋掘り園を開く。
- (6)栗園等...手入れが大変なので、山ではなく平地の休耕田に開く。  
柿園だけでなく、栗、りんご、もも、梅など新しい品目を導入し、ピーアールしていく。

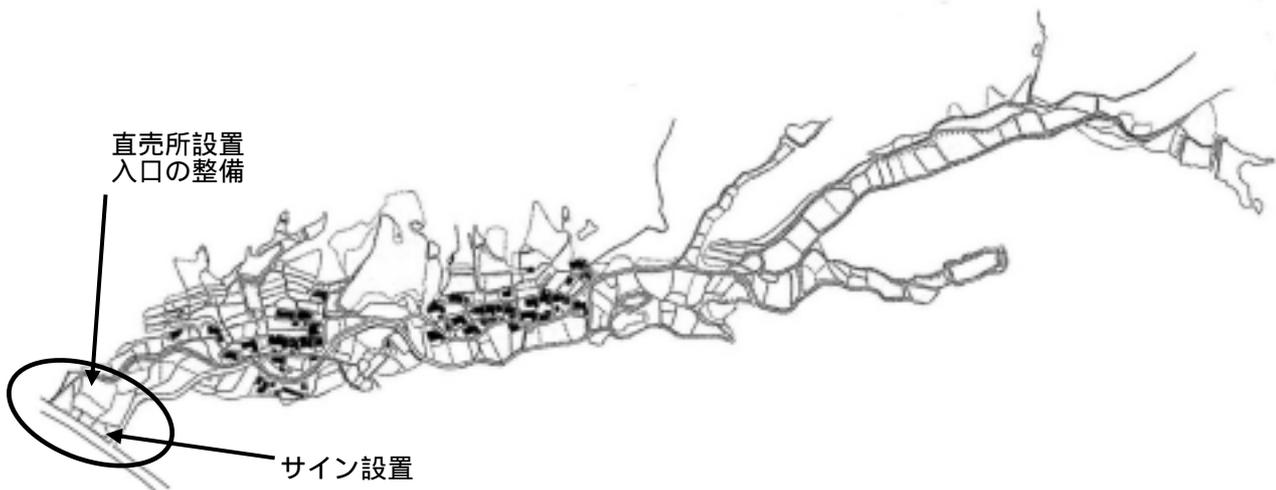


# A

## 3. 農産物直売所

バラエティーと季節感ある農産物の提供

### 1. 計画地区の特性



神戸母里線の新設に伴い通過交通の増加が予想される。  
西神南ニュータウンの拡張に伴い、至近距離で消費需要が増加することが見込まれる。  
新鮮な農産物を提供できる産地直売は消費者に人気が高い。

### 2. 計画の背景と課題

専業農家は少ないが、家庭菜園などの潜在的な農業生産力がある。

友清の豊かな自然に育まれた季節の特産物が地域の特徴づけに有効である。

奥深い谷の入り口に設置することにより、通過する人の興味を集落の奥にも引き付けることができる。

精算方法や運営方法を取り決め、誰もが参加でき競争できるシステムにする。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制	●	
	2. 観光農園		●
	3. 農産物直売所		○
	4. 市民農園		○
B	1. 風力発電	●	
	2. 太陽光発電	○	
C	1. 公園の整備	○	
	2. あずまやの整備		
	3. 桜並木の整備		
	4. 道路整備		
	5. 住みやすい生活環境		
D	1. 友清川の整備	○	
	2. 螢の里づくり		
	3. 丸山の親水公園		
	4. 井戸を掘る		

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

- 1) 新鮮で安全な農産物を手に入れたいという消費者側のニーズは高く、友清周辺でも寺谷や木津などで無人や有人の農産物直売所が開かれており、周辺住民のみならず、地元住民の中でも大変な人気を集めている。
- 2) 友清の入口にあずまや等の施設を配置し、これまで素通りしていた人々においしい農産物を提供し、友清のすばらしさをアピールする。  
神戸母里線の拡張に伴って通過交通が増えることが予想されるため、これらの客を捕える。
- 3) 毎日開催するのではなく、定期的に市を開けば住民の負担も軽減する。
- 4) 友清の入口に友清の表札となるような、よいデザインの"サイン"を設置する。
- 5) たけのこ、山菜といった季節の特産物や、柿の加工品、近所のお米パート2（こしひかり）といった友清の豊かな自然を象徴する農産物を販売して地域の特徴を出す。
- 6) 販売の収入は良いものを作った人が多く収入を得るようなシステムにする。



入口イメージ図



産地直売イメージ



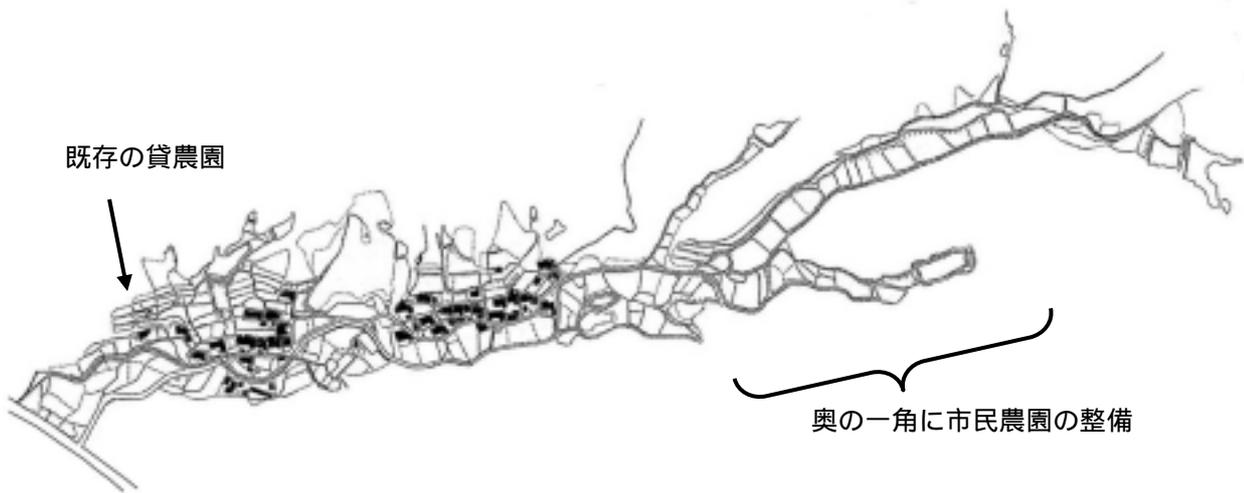
無人販売所イメージ

# A

## 4. 市民農園

地区外住民との交流・農業指導

### 1. 計画地区の特性



集落内は山に囲まれ都市の雑踏と隔離された静けさと落ち着いた雰囲気がある。

### 2. 計画の背景と課題

貸し農園は都市近郊で一定の需要があり、収益性も高い。

便利な入口と同様、集落の奥にも収益性の高い事業を導入したい。

集落の奥に設置すれば、生活環境等が乱れる恐れがある。

貸し農園の景観が見苦しいことが指摘されている。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 螢の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

- 1) 神戸母里線に面する敷地や集落の奥の一角に市民農園を整備する。
- 2) 景観が悪くならないよう工夫し、楽しい雰囲気をもった市民農園にする。
- 3) 地元住民が市民農園利用者に農産物の作り方だけでなく、わら細工の作り方や、餅つきなど、様々な指導をして、多方面での交流を図る。
- 4) 市民農園利用者は、農村地域の環境や現状を理解しマナーの守れる人に厳選する。



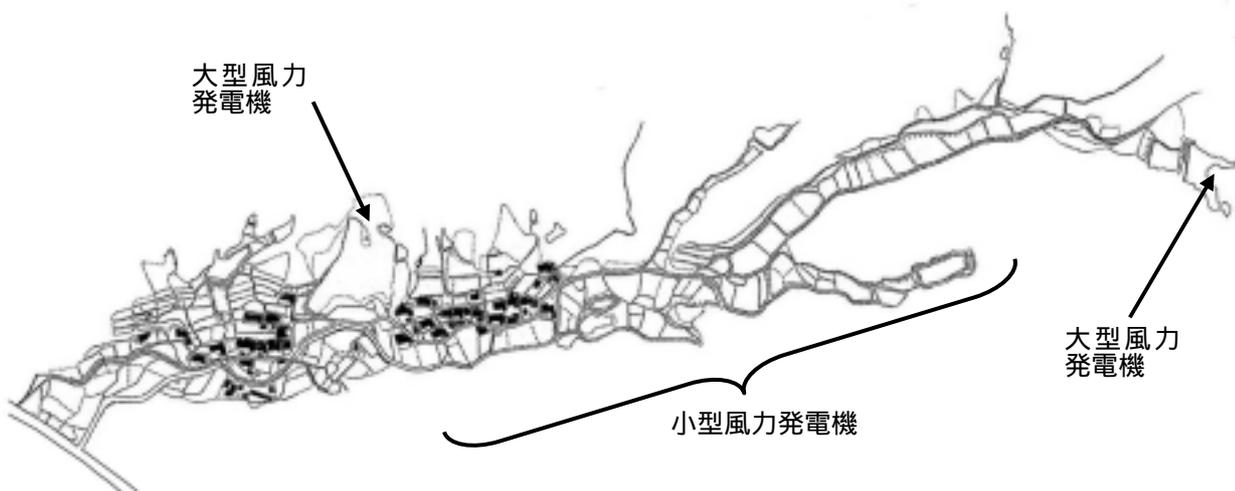
市民農園イメージ

# B

## 1. 風力発電

友清のエコロジカルなシンボル

### 1. 計画地区の特性



外部から独立した生活空間がある。  
 集落の戸数が多くなく、コンパクトにまとまっている。  
 食料の自給だけでなくエネルギー的な自立意識が高い。

### 2. 計画の背景と課題

自然エネルギーを利用した発電は環境にやさしく、クリーンなエネルギーとして注目されている。

全戸を賄えるエネルギー供給を目指したい。

**問題点**

- ・コストが高い
- ・発電量が小さい
- ・風が少ない

風車を設置することにより環境にやさしい村としてのイメージづくりができる。

より優れた風力発電機の開発が待たれる。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 蛍の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

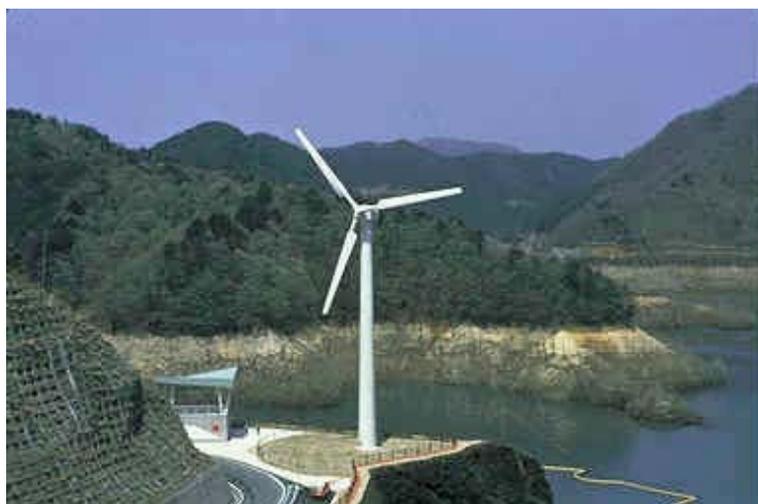
強い連携をとるプロジェクト  
 関連のあるプロジェクト

1) 大型風力発電施設

- (1) 友清川の上流，雄滝，雌滝に挟まれた友清財産区の尾根上に巨大な風力発電の風車を設置する。
- (2) 友清のシンボルにもなり，共同のビニールハウスやあずまの電力としても利用できる。
- (3) 温泉もしくは井戸を掘った場合の揚水用ポンプの電源としても利用できる。

2) 小型風力発電施設

- (1) 友清の集落内に，高さ8メートル程度，微風でも発電可能なタービンを搭載した小型風車を点在させる。風の弱い瀬戸内海沿岸でも充分発電可能な風力発電である。
- (2) 農地は，農産物を生産するためだけでなく，電力も生産する場となり，田園風景と風車の織りなす美しい風景が広がる。



風力発電イメージ



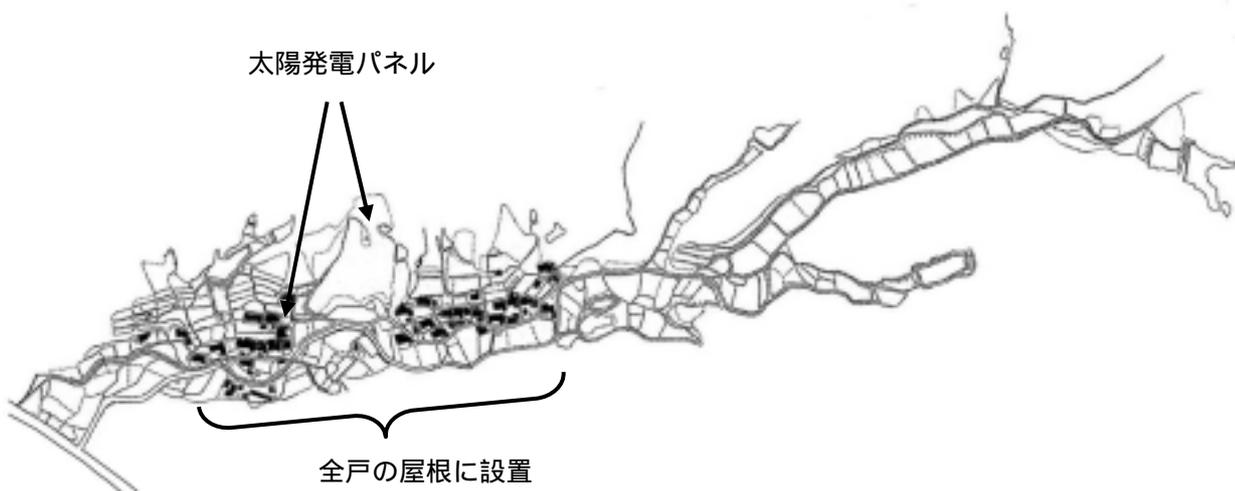
風力発電視察調査

# B

## 2. 太陽光発電

全戸の屋根に太陽電池

### 1. 計画地区の特性



外部から独立した生活空間がある。  
 集落の戸数が多くなく、コンパクトにまとまっている。  
 山に囲まれ南向きの斜面は日当たりが良い。

### 2. 計画の背景と課題

自然エネルギーを利用した発電は環境にやさしく、クリーンなエネルギーとして注目されている。

太陽光発電は普及しつつあり、技術的水準も高くなっている。

発電量に比べコストが高いため、安価で性能の良いシステムの開発が待たれる。

#### 技術的問題

- ・ 設備費に見合う発電量確保
- ・ 屋根の耐荷性
- ・ メンテナンス
- ・ 雨天、曇天日の発電量アップ

### 3. 他計画との連携

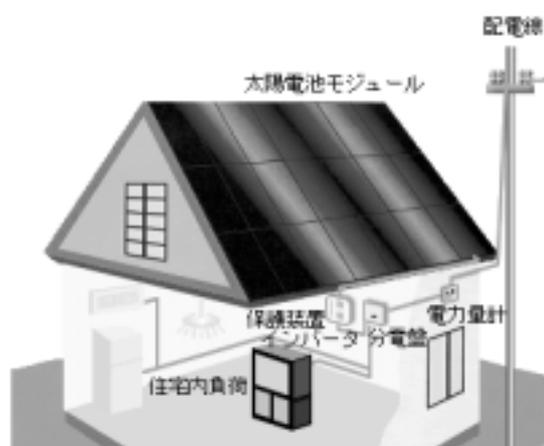
A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 蛍の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
 関連のあるプロジェクト

- 1) 友清集落全戸の屋根の上に太陽光発電のパネルを設置し、自立した電力環境を作り上げる。
- 2) 共同でタカボンなどヶ所に太陽電池パネルを設置する。  
公会堂を利用して設置する。
- 3) 風の強弱に左右される風力発電とは違い、日照の妨げになる障害物の少ない友清で理想的なエコ発電システムといえる。
- 4) 太陽熱温水器を兼ねた発電システムの採用で、家庭で行う温水もまかなうことができる。
- 5) 太陽光発電は、様々な補助金のシステムがあり、早期実現可能なシステムといえる。



太陽光発電イメージ

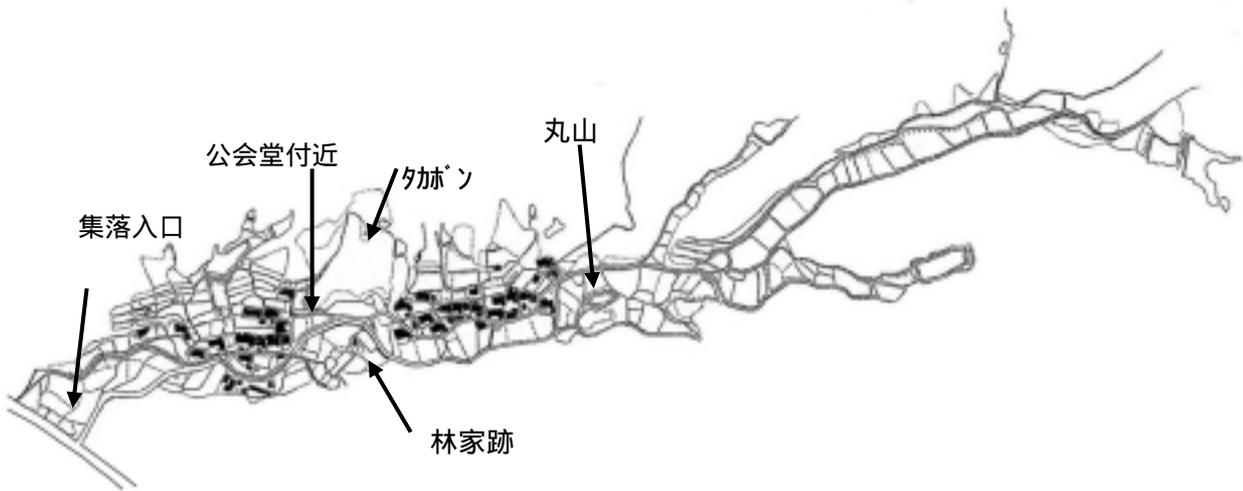




# 1. 公園の整備

子供の公園，丸山公園を整備し，公園のネットワーク

## 1. 計画地区の特性



集落の中にポイントとなる場所がいくつかある。

- ・集落入り口
- ・丸山
- ・タカボン
- ・公会堂付近      など

## 2. 計画の背景と課題

子どもが遊べる公園がない。  
大人も利用できる広場が欲しい。

子どもから大人までが憩えるコミュニティスペースが生活圏のすぐ側に欲しい。

柿園の高台は見晴らしが良いが、未整備のまま活用されていない。

林家跡は空家になっており、集落の財産として利用できる。

## 3. 他計画との連携

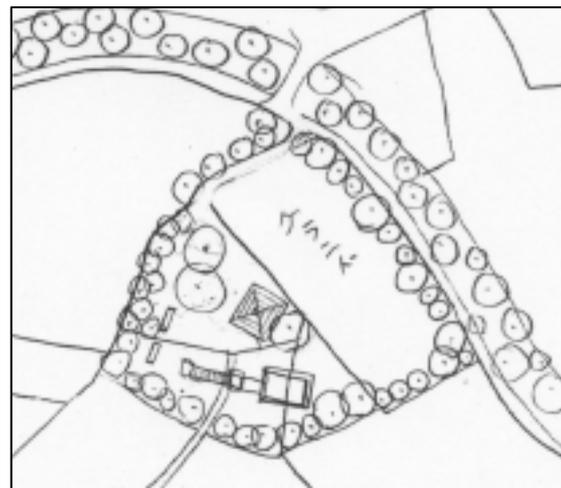
A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 螢の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

- 1) 公会堂前の広場，丸山，林家跡，タカボンなどに公園を整備する。  
子供たちが安全に遊ぶことのできる場所，お年寄りがゆったりとくつろげる場所をつくる。
- 2) 丸山の池を埋めないで，親水公園とする。



公会堂前の公園整備



子どもの公園整備（林家跡）



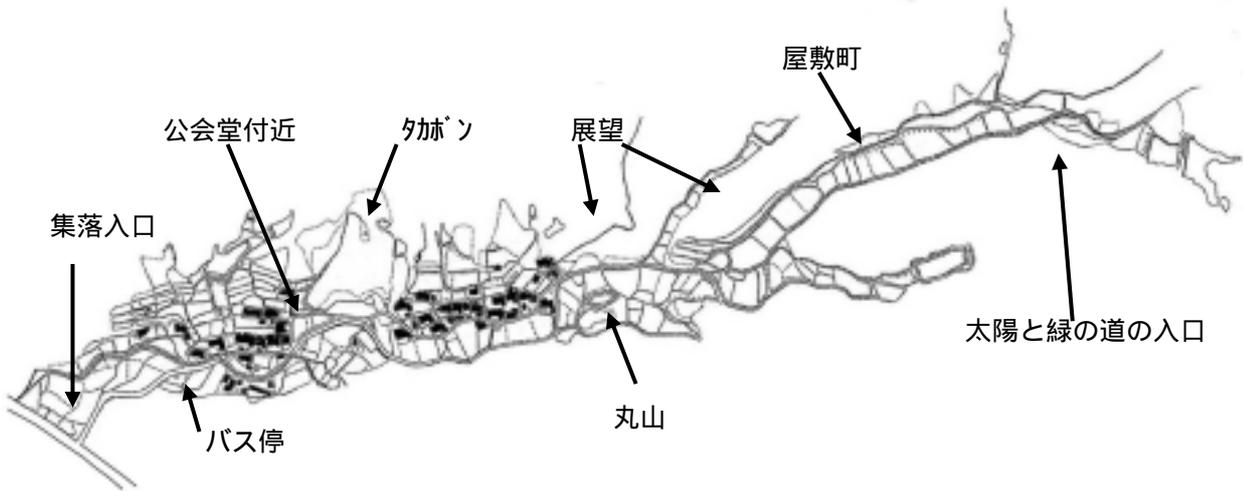
子どもの公園イメージ



## 2. あずまやの整備

友清の各所にあずまやを点在させ友清の拠点とする

### 1. 計画地区の特性



ポイントとなる場所が集落内にいくつかある。

### 2. 計画の背景と課題

ポイントとなる場所が放置され  
たまま活用されていない。

展望のよい場所や集落を見渡せる  
場所で自然とふれあい、人々が  
憩える空間を創出したい。

地区外住民との交流活動に活用  
できる。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 蛍の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

- 1) 友清入口や、柿園など展望のきくポイント、太陽と緑の道からの入口、公園など友清の拠点となる場所にあずまやを設置する。山菜狩りなど観光農園開催時には地元住民があずまやに駐在し、利用者の案内や入山料の徴収などを行う。
- 2) あずまやは友清の木材を使い、友清の人たちが自分たちで自ら作り上げる。



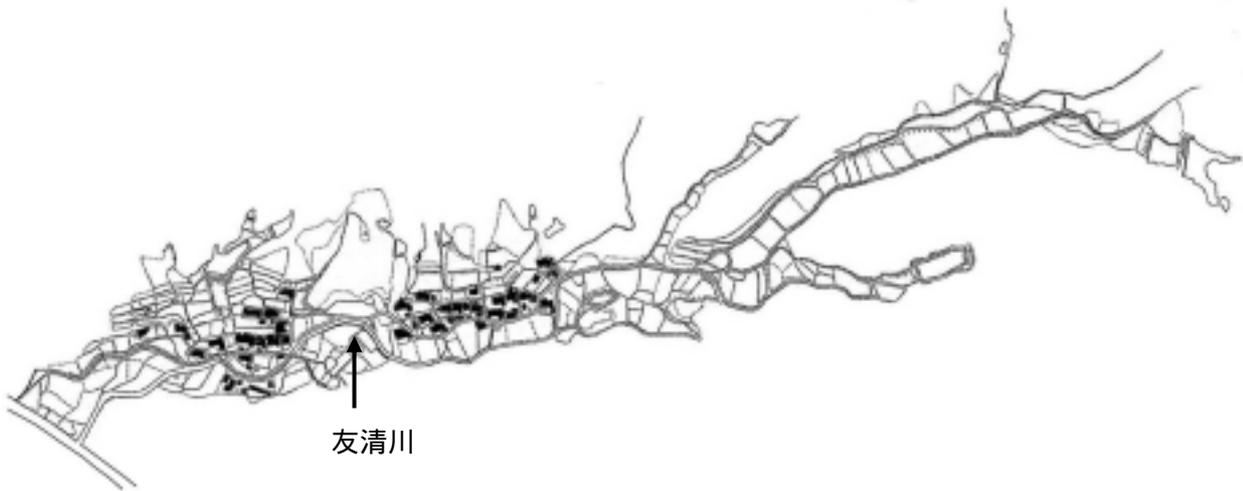
あずまやイメージ



### 3. 桜並木整備

友清川，農道沿いに四季の彩

#### 1. 計画地区の特性



河川と道路が交差しながら，友清の骨格をつくっている。

#### 2. 計画の背景と課題

川のせせらぎとともに四季の彩りを感じる情景を演出したい。

景観に対する意識の高い集落である。

#### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 螢の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

- 1) 友清川や農道沿いに農作業のじゃまにならない程度の桜並木を作り，桜の季節には集落内を桜並木の道を歩いて回遊できるようにしたい。
- 2) 桜並木を整備することで，これまでは歩くことのなかった，川沿いや農地沿いの道を歩き，自然と関わることができる機会を増やす。



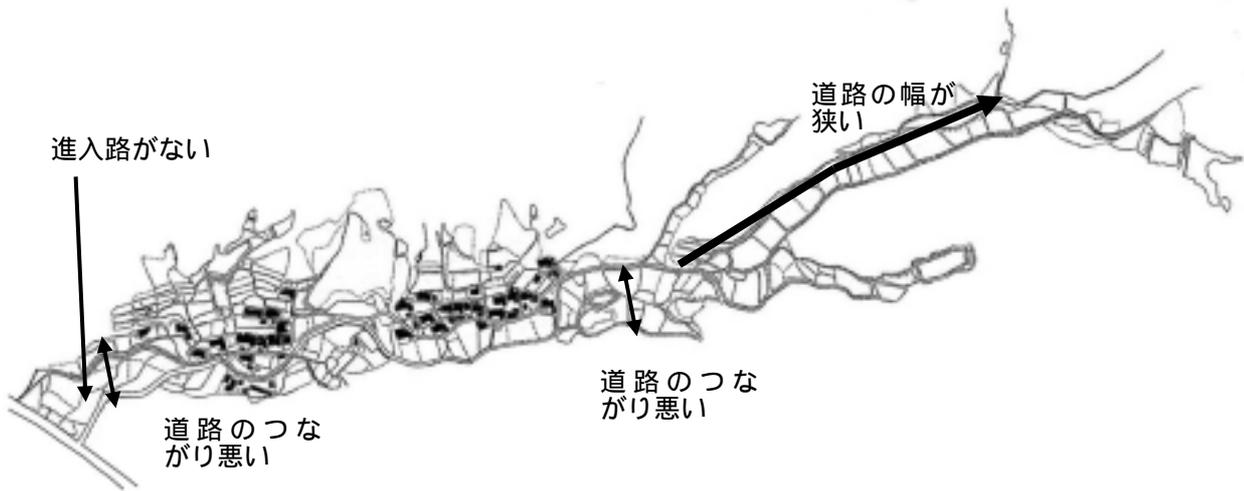
川と桜並木イメージ



## 4. 道路整備

ほ場整備の必要はないが，農道は整備しておく

### 1. 計画地区の特性



### 2. 計画の背景と課題

農道が狭く，大型機械が通れないため，農作業の効率が悪い。

進入路のない農地もある。

舗装されていない。

道路のつながりが悪い。

集落を回遊する遊歩道としての整備もほかりたい。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 蛍の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

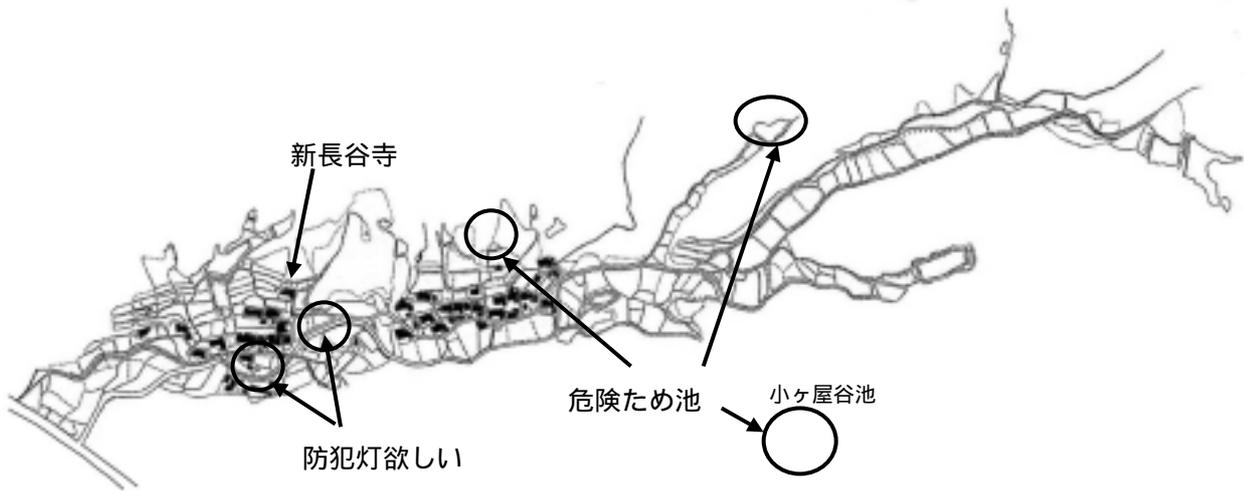
- 1) ほ場整備の必要はないが、農道が狭いため、今後の農作業の利便性を考え、農道の拡張を行う（3m幅）。また、補強の必要な場所があり、整備を行う。  
（整備箇所別図のとおり）
- 2) 次世代に農業を継承するにも、定年後農業に戻る場合にも有効な整備である。
- 3) 農道と併せて遊歩道の整備を行う。  
遊歩道には、材料に木を使用して自然に近い仕上げを行う。



## 5. 住みやすい生活環境整備

お年寄りも住みやすい町

### 1. 計画地区の特性



### 2. 計画の背景と課題

集落が住みにくいという意見は、交通の便の悪さ、店舗や医療施設といった施設が近くにならないということが主な理由と考えられる。

日常の不安要素を解消し、農村であっても、より住みやすい生活環境に整え、次世代に継承したい。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 蛍の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

1) 景観の美化

集落の入口や川沿い，公園や休耕田などに花を植え，四季を通じて人々の目を楽しませるよう工夫する。

2) 新長谷寺周辺の保存

新長谷寺には，観音堂，大楠木，モチの木といった貴重な文化財や樹木があり，趣のある情景を残している。この周辺を美しく保全する。

3) ため池の整備

大雨時，決壊する恐れのあるため池は早期に整備する。

4) 防犯灯の設置

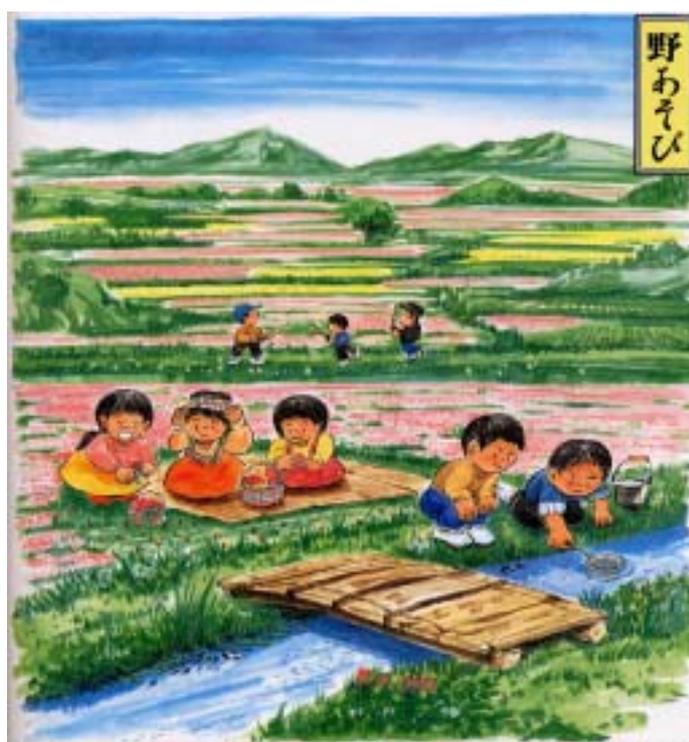
集落内は夜間暗く，通行に危険があるため，防犯灯を設置して安全を確保したい。

5) 交通の便

バスの本数が少なくお年寄りや子どもなど車が使用できないものには，不便が多く生活にも支障をきたしている。西神南の拡張にあわせてバスの増便を要望する。

6) 特定用途区域の景観保全・形成

特定用途区域の周辺は特定の樹木や柵などの設置を使用者に義務づけることにより，景観に配慮する。

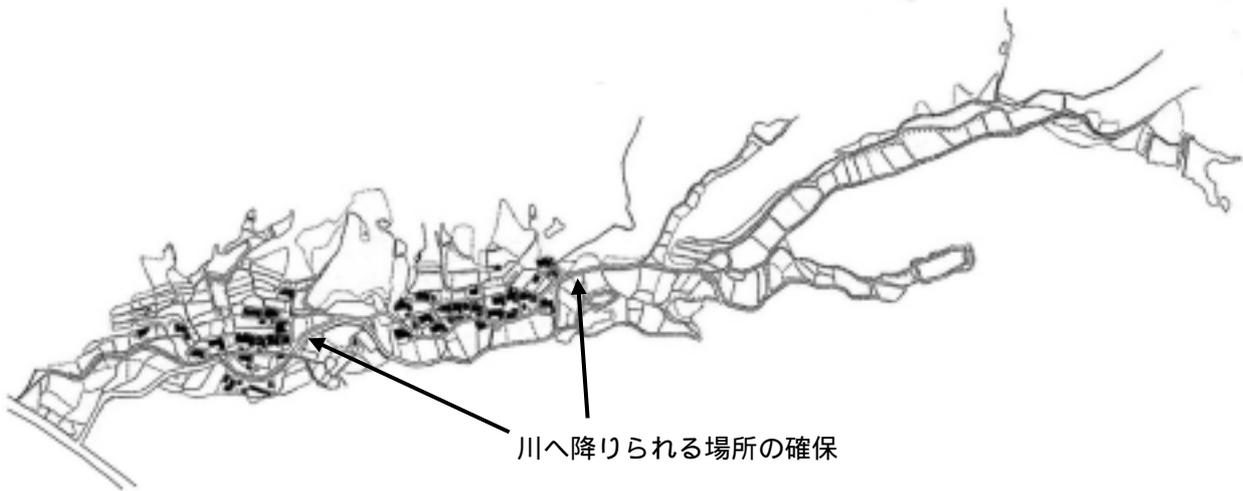


# D

## 1. 友清川の整備

ため池から下流まできれいな友清川

### 1. 計画地区の特性



河川は未整備で堤防が低い。

### 2. 計画の背景と課題

合併処理浄化槽の設置により、  
河川の水質は良くなっている。

川の中に雑草が繁茂している。

水が少ないためよどんで、ハエ  
や蚊などの害虫が発生しやすくなっている。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 蛍の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

- 1) 深い森の中にあるため池から集落内を流れ、下流まできれいな水が流れるよう友清川の水質を守る。
- 2) 子どもたちが水際に下りて、楽しく遊べる場所を確保する。
- 3) オイカワやハヤなどがいる友清川で子どもたちが楽しく魚釣りをする風景を取り戻す。池に魚を放流して川へ泳がせる。
- 4) 友清川の生態調査や、水質調査を子どもたちと行い、川と楽しむ心を育てる。
- 5) 川の草刈や清掃を行い、川を美しくする。

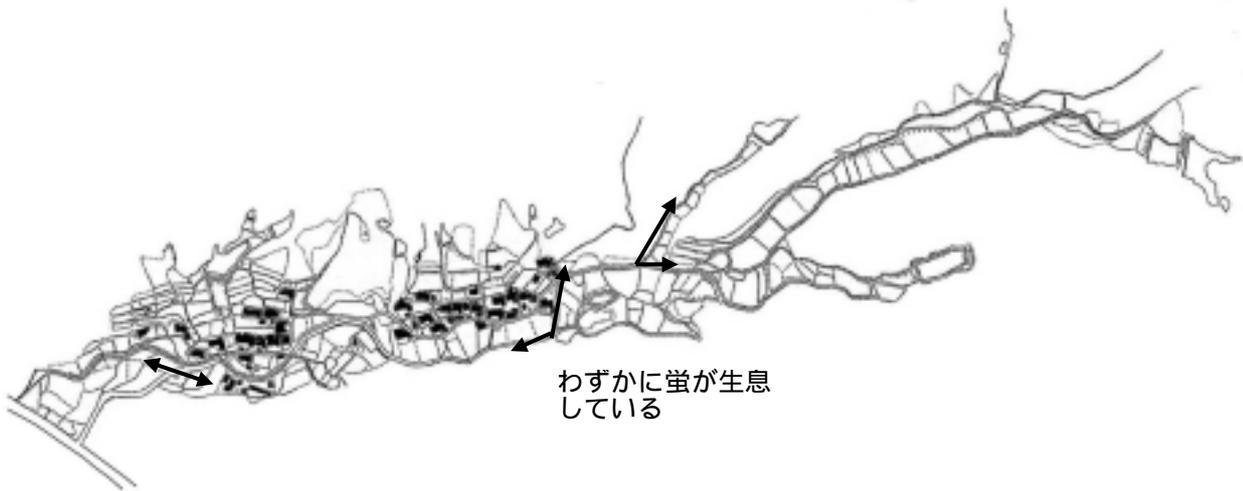


# D

## 2. 蛍の里づくり

蛍を友清川に乱舞させよう

### 1. 計画地区の特性



集落上流で蛍の生息が確認されている。  
下流でもいくらか見られる。

### 2. 計画の背景と課題

以前はたくさん見られた蛍も今は数えるほどに減ってしまった。

集落上流では、努力次第で蛍の繁殖も可能である。

幼虫の餌となるカワニナを放流するなど積極的な手段も講じる。

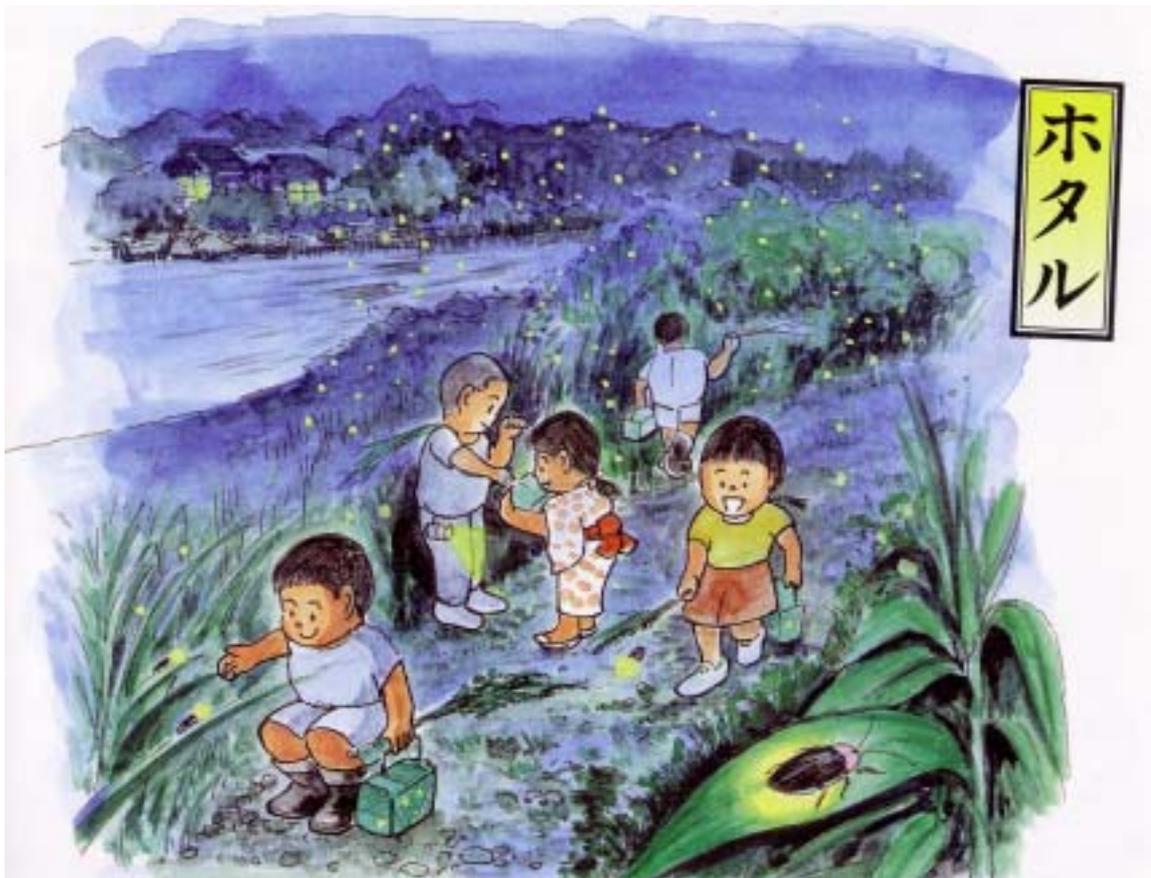
身近な水系の環境を考える指針としてとらえる。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 蛍の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

- 1) 蛍を増やし，乱舞させよう。
- 2) 農薬の使用をできるだけ控える。  
また，農薬の種類や散布方法を変えるなど，環境への影響を最小限に抑えるように工夫する。
- 3) 観光農園や市民農園の利用者を招待して蛍の鑑賞会を行う。

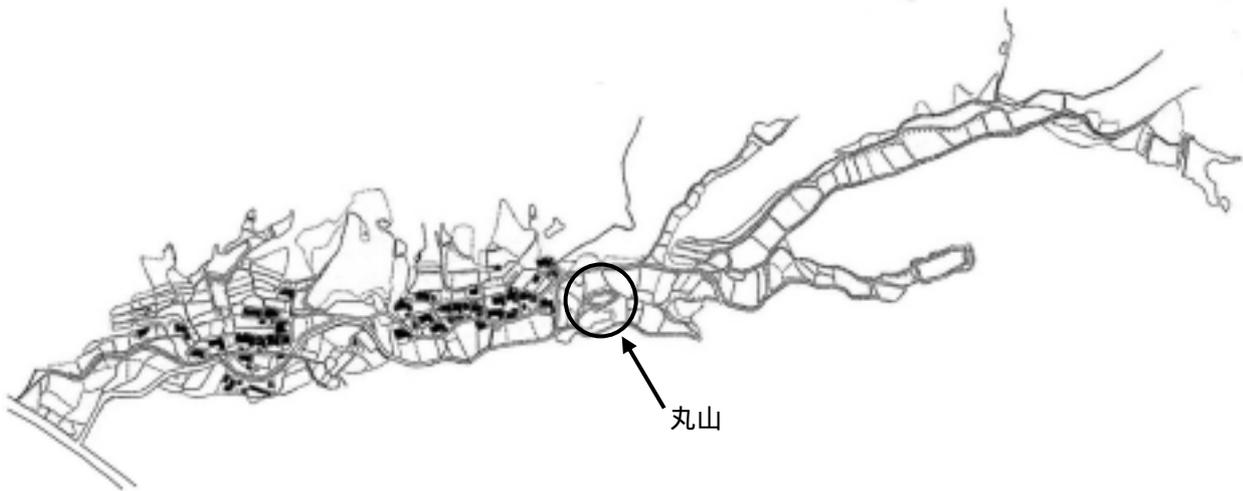


# D

## 3. 丸山の親水公園整備

丸山とため池の一体的整備

### 1. 計画地区の特性



丸山は丸い形をした小高い丘で古墳とも思われるような不思議な形をしている。すぐ側にため池が隣接している。

### 2. 計画の背景と課題

丸山は集落上流に位置し、小高くなっており、集落を見渡せる。

池は放置されていて雑木がしげっている。埋めて公園にすることも検討された。

池と一体的に整備し、親水公園として利用することが望まれる。

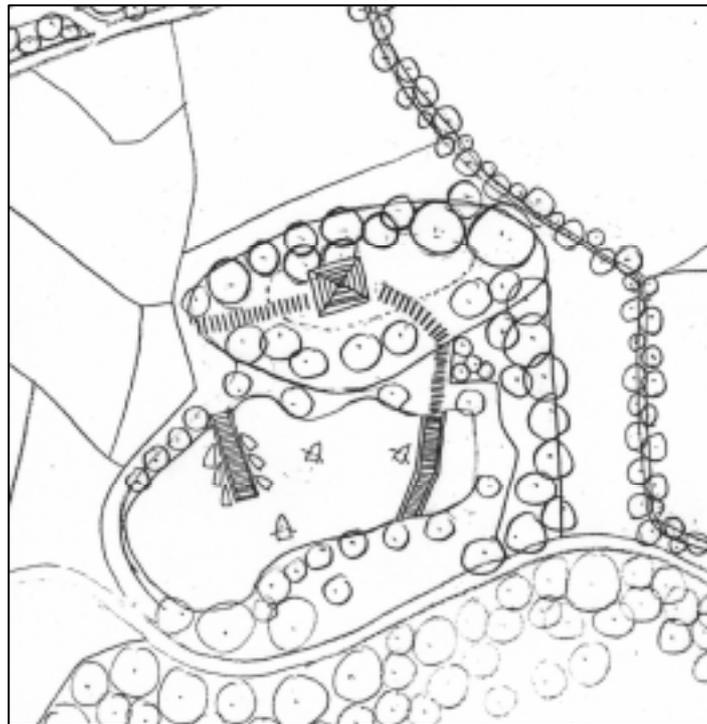
魚やとんぼなど水辺生物の生息の場としてビオトープに活用したい。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 蜜の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

1) 丸山の公園整備と共にため池の親水公園化を図る。



丸山の親水公園整備イメージ

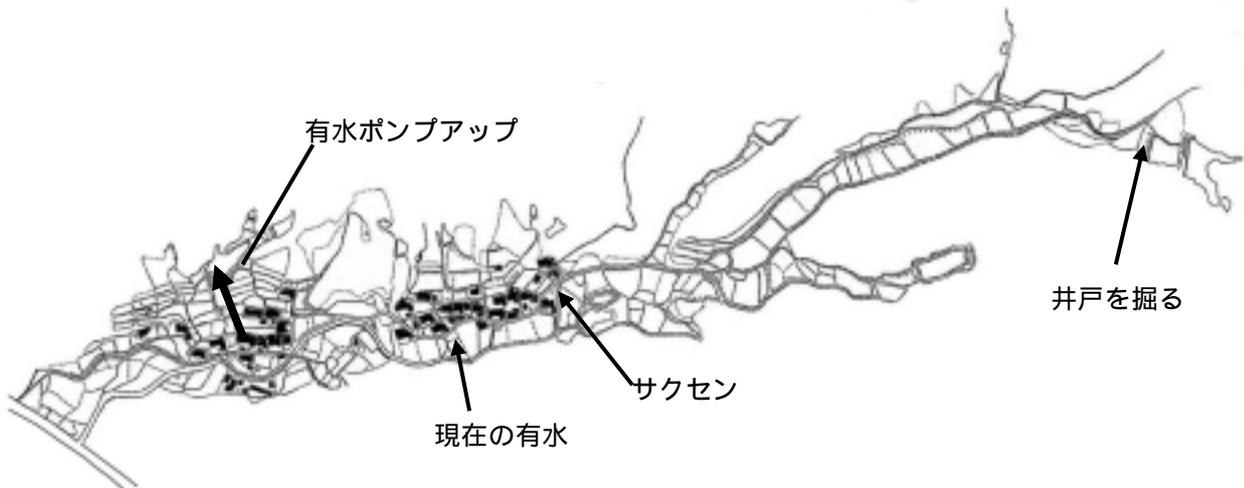


# D

## 4. 井戸を掘る

豊かな水環境整備

### 1. 計画地区の特性



福谷との境にトンネルを掘ったために、簡易水道や農業揚水の水が干上がってしまった。今では、友清川の水量は少なく、農業用水が不足している。水が川の中ほどで川底へ染み込んで流れ出しているようである。

### 2. 計画の背景と課題

川のせせらぎを取り戻すには水の流れの調査を行う必要がある。

サクセンは、一つは最も上流の丸ヶ谷口池付近に掘るのがよい。

揚水のため電力が必要だが、電線を通す場合は、景観に配慮したい。

### 3. 他計画との連携

A	1. 共働の集落営農体制
	2. 観光農園
	3. 農産物直売所
	4. 市民農園
B	1. 風力発電
	2. 太陽光発電
C	1. 公園の整備
	2. あずまやの整備
	3. 桜並木の整備
	4. 道路整備
	5. 住みやすい生活環境
D	1. 友清川の整備
	2. 蛍の里づくり
	3. 丸山の親水公園
	4. 井戸を掘る

強い連携をとるプロジェクト  
関連のあるプロジェクト

井戸を掘る

- 1) おいしい水の湧き出る井戸を掘る。
- 2) 友清川の水量を確保するために掘る。  
農業用水，貸し農園用の水，蛍の生息のため水量が必要である。  
ポンプアップのため電力が必要となる。

温泉を掘る

- 1) 温泉を掘り当てる。

ポンプアップ

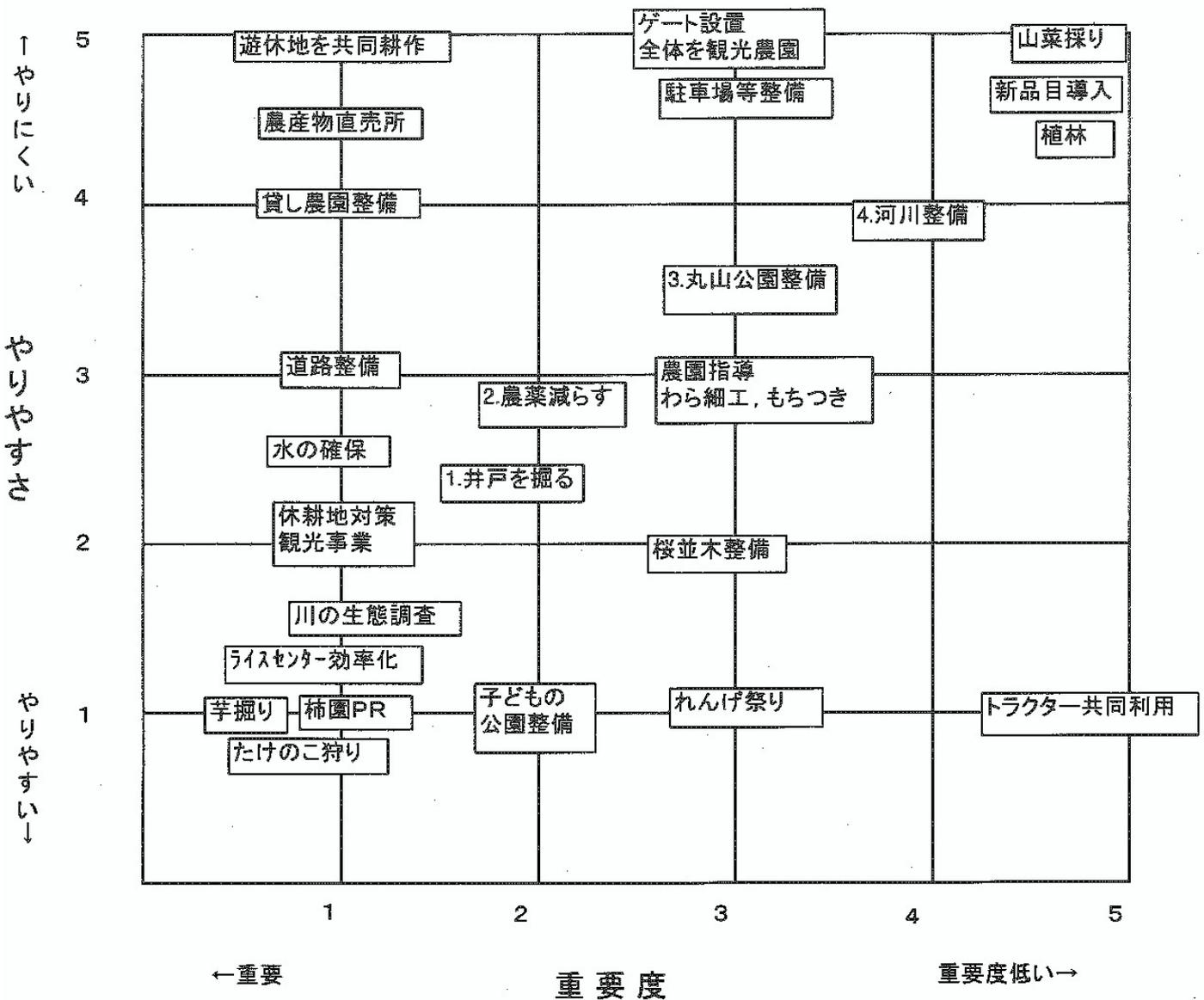
- 1) 農業用水確保のため，池まで水をポンプアップする。

4) 計画プログラム

計画実施の優先順位を決めるため、それぞれのプロジェクトについて重要性と実施のしやすさを5段階に区分し、縦横に軸をとってプロットした(下図)。

重要度が高く、やりやすいものから実施し、重要度が高いがやりにくいものは実施に向けて準備を進めていく。

友清里づくり計画プログラム



計画指導および作業協力

役 職 名	氏 名
神戸芸術工科大学 教授	齊木 崇人
齊木研究室助手	懸樋 喜康
大学院生	中島 英孝
大学院生	Juan Ramon Jimenez

事務局

役 職 名	氏 名
産業振興局西農政事務所 所長 (11年度)	藤平 博司
(12年度)	中尾 博行
地域整備係長	小田 大治
担当	石井 月代

## 友清里づくりアンケート結果表

配布日	平成11年12月3日	配布数	94部
回収日	平成11年12月18日	回収数	90部
		回収率	95.7%

世帯主・家族両用アンケート

あなたご自身に関すること

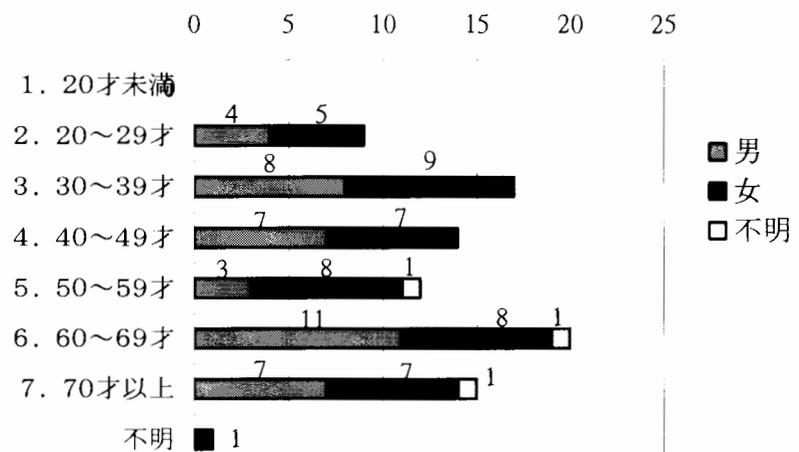
問1 あなたの性別と年齢をお尋ねします。  
あてはまる番号にそれぞれ1つ○印をつけてください。

回答数 88名

1. 男	40	47%
2. 女	45	53%
計	85	

回答者の年齢と性別

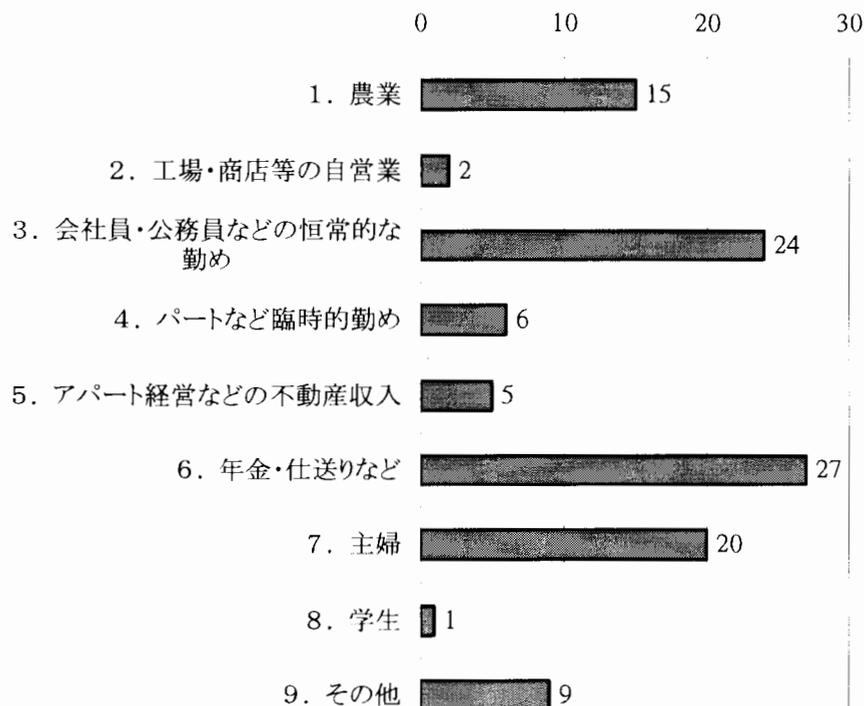
1. 20才未満	0	0%
2. 20～29才	9	10%
3. 30～39才	17	20%
4. 40～49才	14	16%
5. 50～59才	12	14%
6. 60～69才	20	23%
7. 70才以上	15	17%
計	87	



問2 あなたは、どのような職業から収入を得ていますか。  
あなたご自身のご職業について、あてはまる番号全てに○印をつけて下さい。

回答数 87名

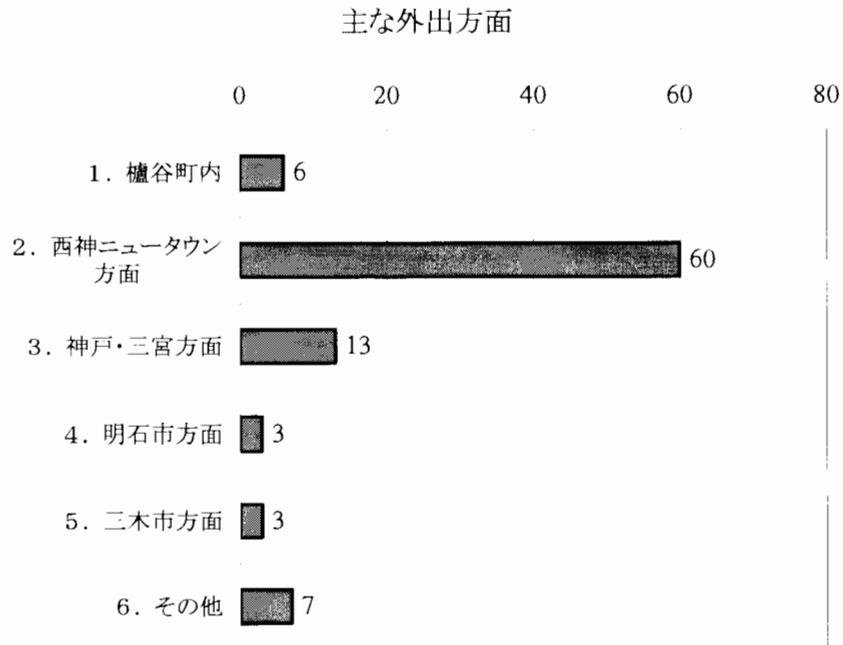
職業・収入



## 生活環境に関する事項

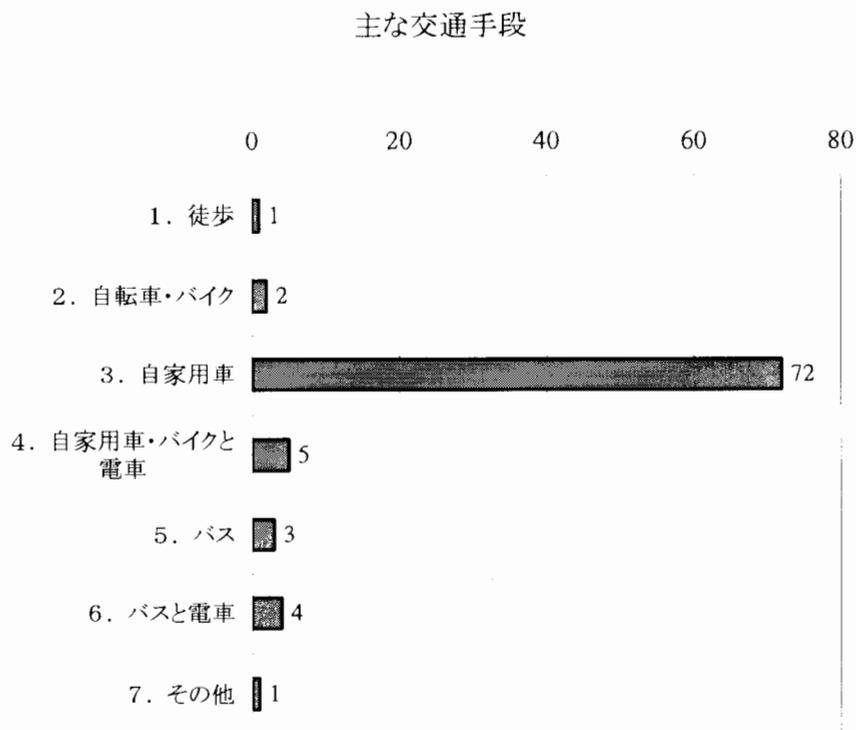
問3 あなたご自身が、お仕事や日常の買い物、レジャーなどで外出される場合、どちらの方面に出かけられることが多いですか。もっとも多い方面1つを選んで番号に○印をつけてください。

回答数 91名(重複1)



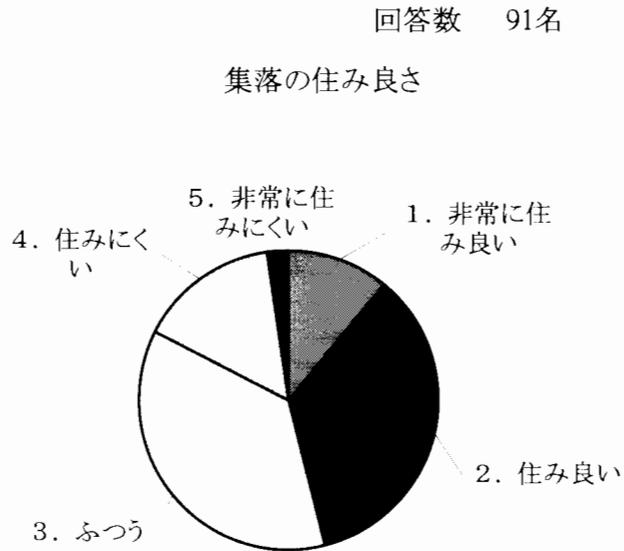
問3-2 その場合、交通手段は何を利用されますか。もっともよく利用するもの1つに○印をつけてください。

回答数 88名



問4 この集落の住み良さについてあなたはどのように思いますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

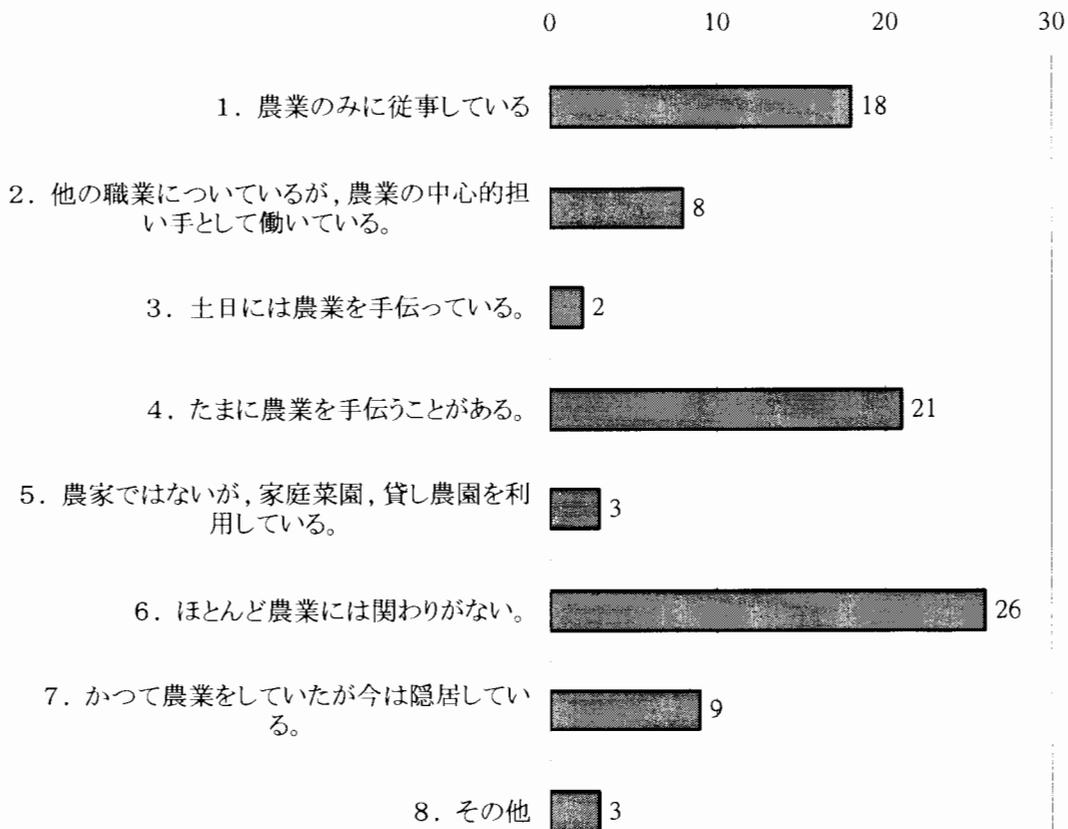
1. 非常に住み良い	10	11%
2. 住み良い	32	35%
3. ふつう	33	36%
4. 住みにくい	14	15%
5. 非常に住みにくい	2	2%
計	91	



問5 あなたご自身は、農業についてどの程度の関わりを持っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

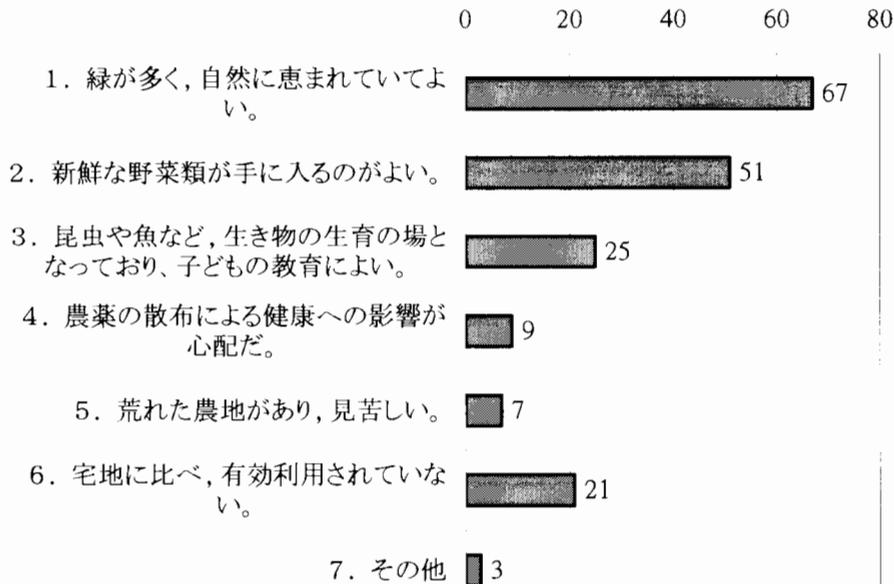
回答数 90名

農業とのかかわり



問6 あなたのお宅の近くに農地が広がり、農業が営まれていることについて、  
あなたはどのように思いますか。あてはまるもの全てに○印をつけて下さい。(複数回答可)  
回答数 88名

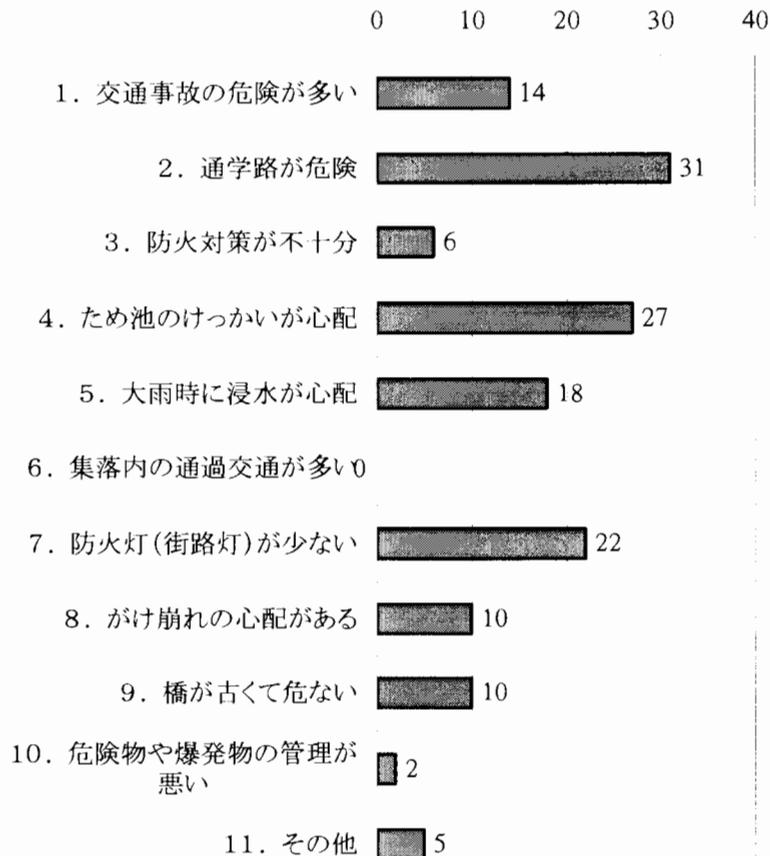
## 農業・農地の評価



7. その他 14. 貸し農園の周辺が見苦しい。

問7 あなたの家の周りで日頃、危険だと思っていることや不満を感じていることは何ですか。  
あてはまるもの全てに○印を付けてください。(複数回答可) 回答数 75名

## 危険・不安に感じること

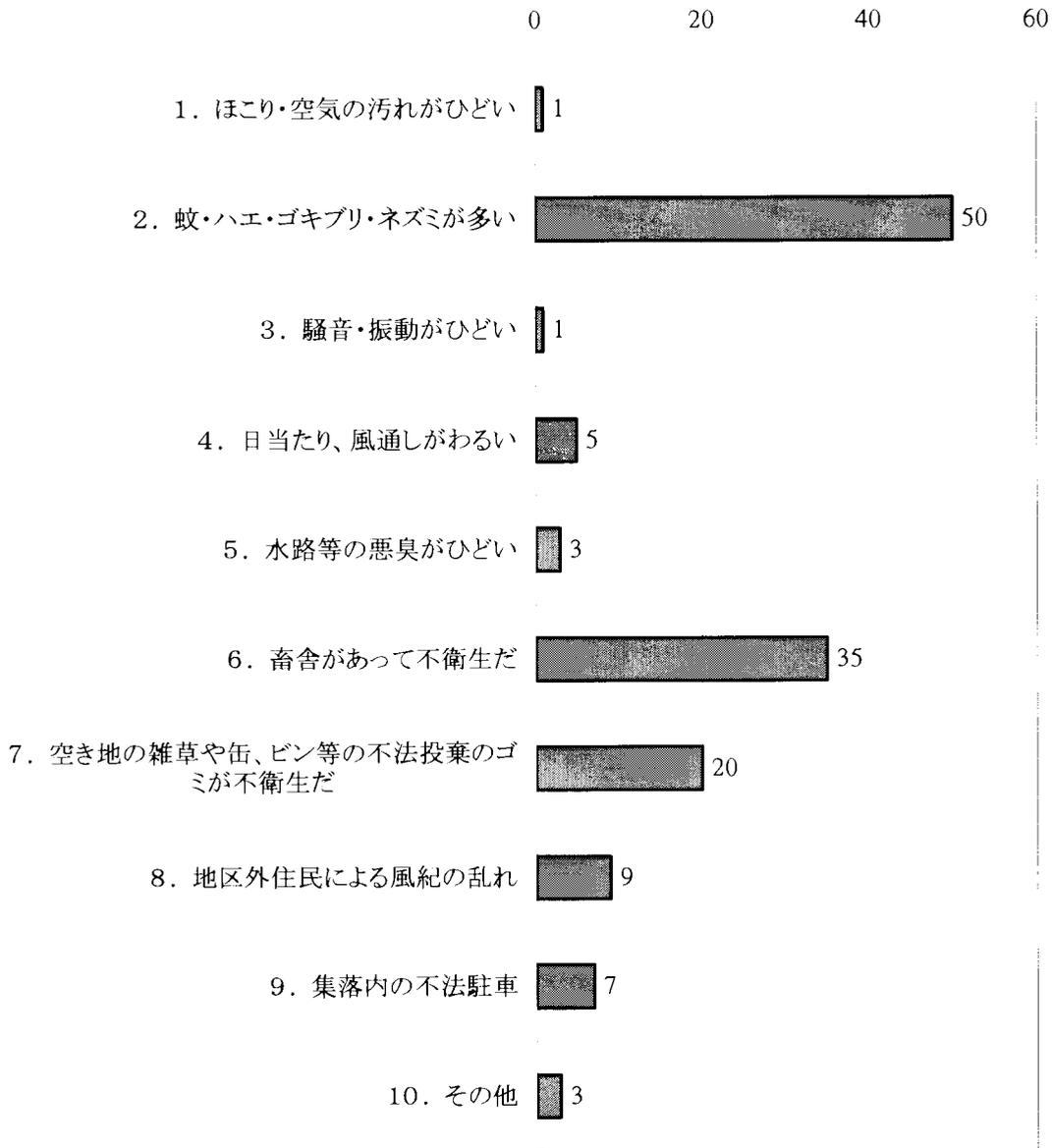


11. その他 78. 夜ひとりで歩いて帰宅できない。のら犬, チカンなど。

問8 あなたの家の周りで日頃、健康や衛生の面で不満を感じることは何ですか。  
 あてはまるもの全てに○印を付けてください。(複数回答可)

回答数 77名

健康や衛生面での不満

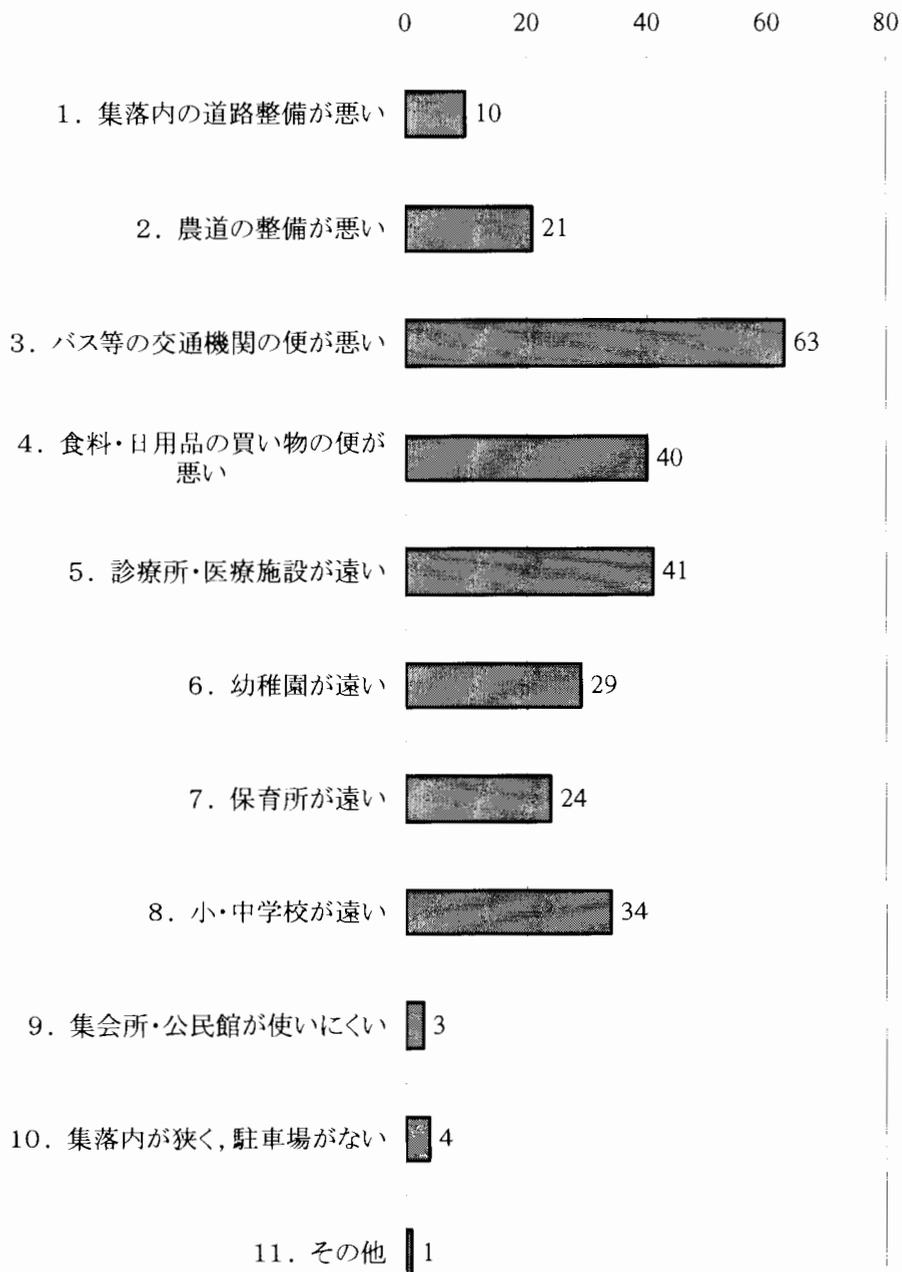


10. その他
- 8. バスの回転道路に不法駐車が多い(土日)
  - 53. 散歩の時、空き缶を拾っているがよく目につく。捨てないように。

問9 あなたの家の周りで日頃、不便だと感じていることは何ですか。  
あてはまるもの全てに○印を付けてください。(複数回答可)

回答数 83名

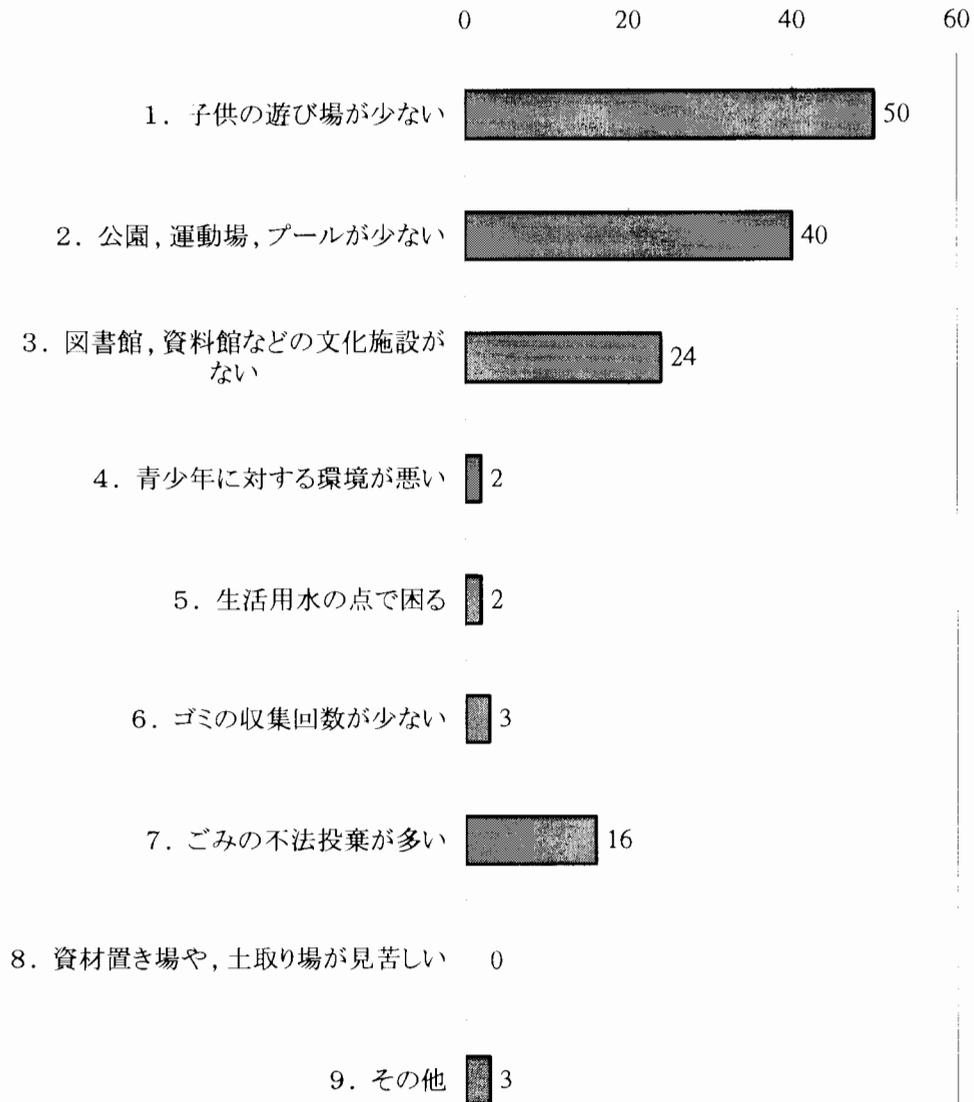
不便と感ずること



問10 あなたの家の周りで日頃、生活の快適さの面で不満を感じていることは何ですか。  
あてはまるもの全てに○印を付けてください。(複数回答可)

回答数 69名

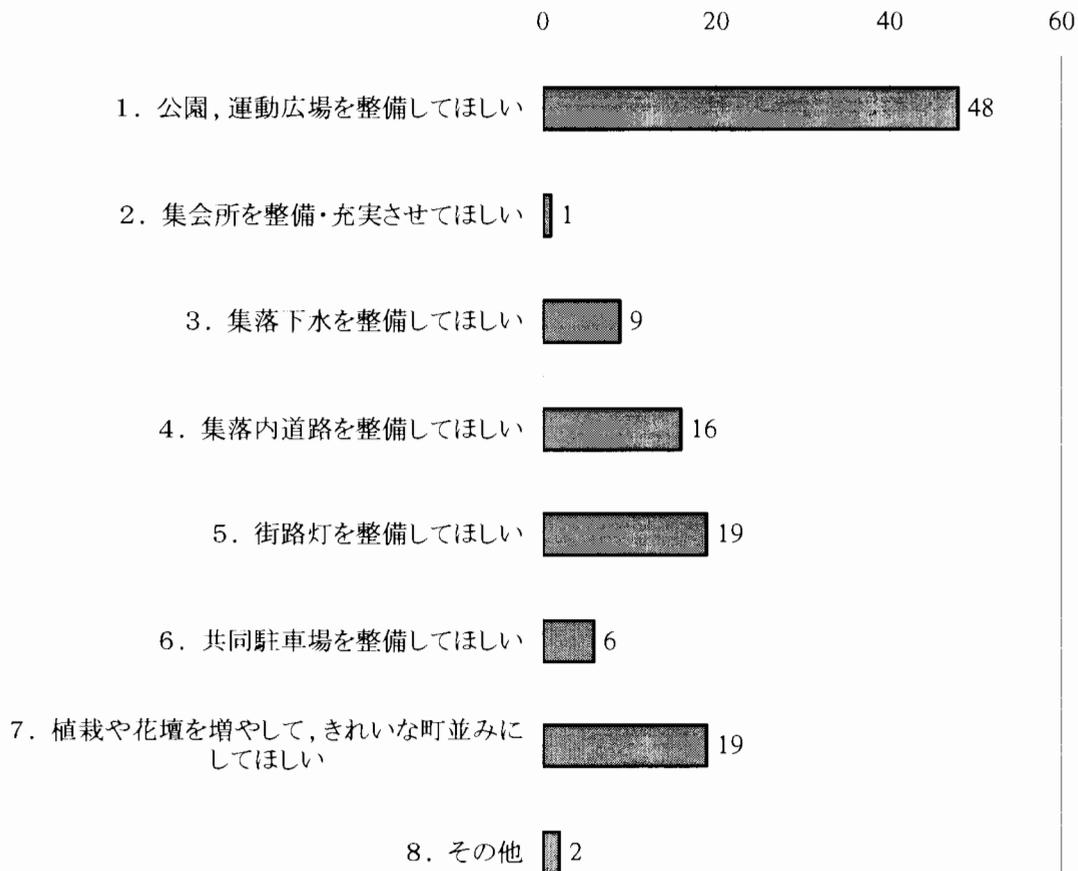
生活の快適面での不満



問11 少しでも快適な生活を過ごすために今後地域にどのようなことが必要だと思いますか。  
 あてはまるもの全てに○印をつけてください。(複数回答可)  
 また、項目以外に何かあれば、ご記入ください。

回答数 73名

快適生活に必要なこと



8. その他

3. 公園があまりにも遠いので, 不便の一言です。

ちかんが出やすい時間は特に街路灯を増やすなど空港建設に出すお金があるのなら, 地域住民に対する気配りが必要なのではないですか!

14. 後々の保守管理責任者を決めて続行していくのがどの様にしたらよいでしょうか。

18. 川辺等に花を植え, 気持ちの良い集落造りを望みます。

57. 人の寄るところにプランターを置いて花を植えると良いと思う。

63. バスの回数を増やしてほしい。

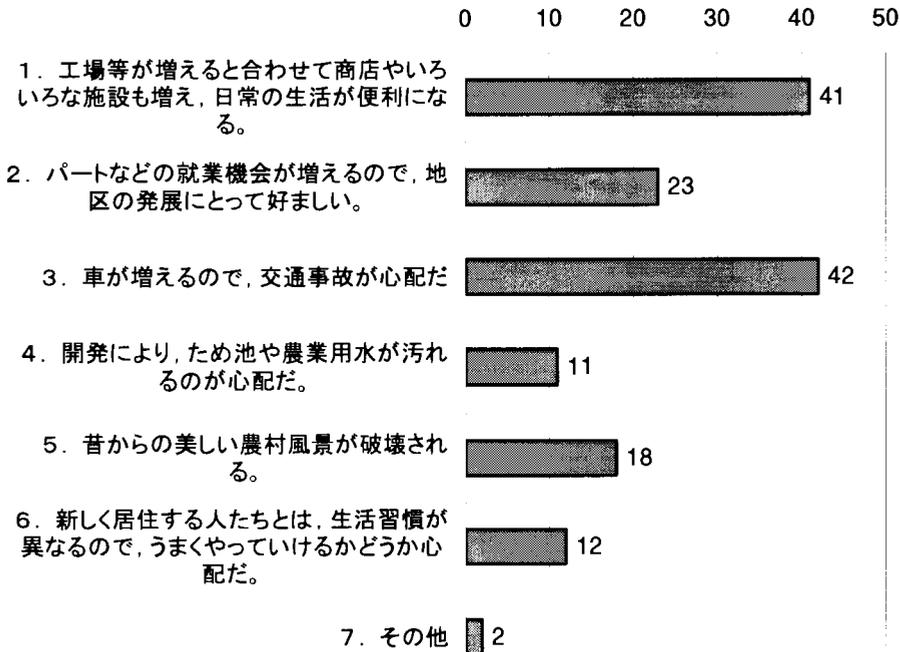
81. 西神ニュータウン等へ行くバス(公営の交通手段)が非常に少ない。

今後の地域整備に関する事項

問12 地域の周辺(西神ニュータウンなど)では、都市化が進み、一般住宅や店舗、工場等が進出していますが、これについてあなたはどのように思われますか。あてはまるもの全てに○印をつけてください。(複数回答可)

回答数 80名

周辺の都市化について

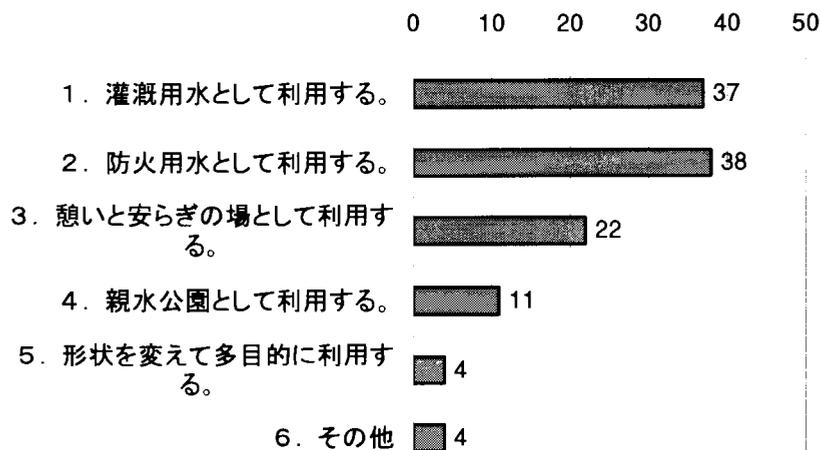


7. その他 63. 友清だけが取り残されている。

問13 この地域のため池の将来的な役割について適当と思われる番号に○印をつけて下さい。(複数回答可)

回答数 74名

ため池の将来的な役割



5. 池の名前 19. 畑田奥池

20. 畑田大池

6. その他 14. 統合できる範囲内でダムを作り下流の水を上に戻元するようにして水不足を解消しては

37. 利用していない池は危険防止のためにも整理してはどうか。

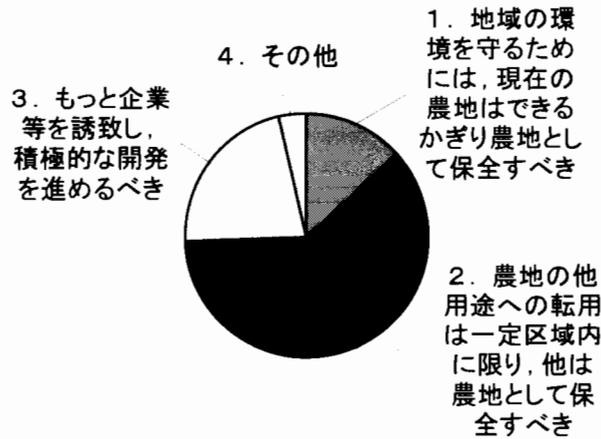
77. 水上ゴルフ場

問14 この地区の今後の土地利用や地域整備のあり方として、次のどれが望ましいと考えますか。  
1つ選んで○印をつけてください。

- 1. 地域の環境を守るためには、これ以上の開発を許さず、現在の農地はできるかぎり農地として保全すべき 11
- 2. 農地の他用途(分家住宅, 駐車場など)への転用は一定区域内に限り, 他は農地として保全すべき 50
- 3. もっと企業等を誘致し, 積極的な開発を進めるべき 18
- 4. その他 3

回答数 80名

地域整備のあり方

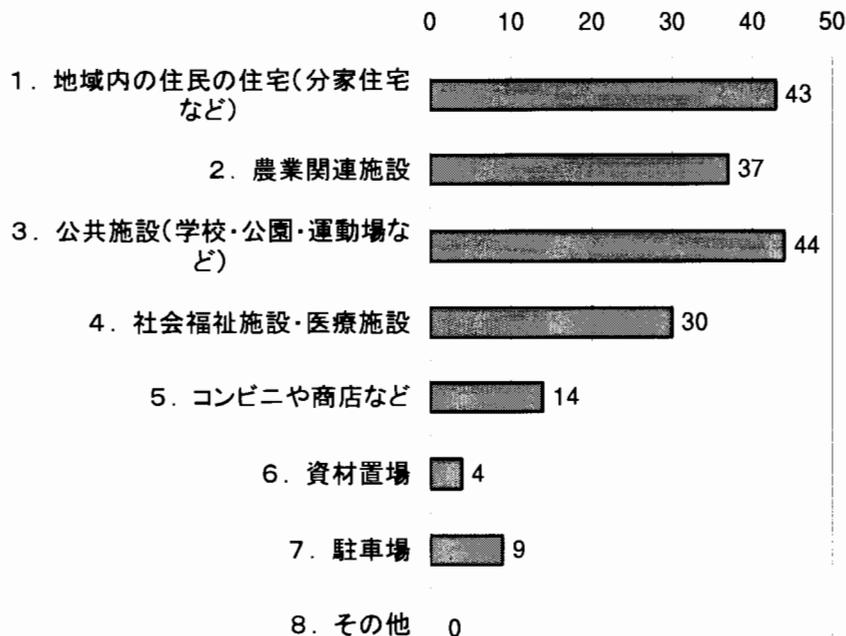


4. その他 4. 農地の分家住宅への転用はもっと規制をゆるめるべきだと思う。  
80. 農地の他用途への転用も容易にすべき。

問15 もし、この地域において、今後新たな土地利用(開発)をする場合、どのような開発であれば認めてもよいと思いますか。認めてもよいと思われるもの全てに○印をつけてください。  
(複数回答可)

回答数 82名

認めてもよい開発



問 16 この地域の中でよく親しみ訪れる所、気に入っている所、自慢できる場所（保全すべき場所）があれば、記入してください。

- 14. 1. 道路が行き止まりで関係外の車の出入りが無いこと。
  - 1. 自然の景観が保たれていて都市周辺では珍しいから壊さないでと外来の方からお聞きした。
- 15. 行結で通抜かない事
- 18. 別に気に入っている所と言われても、思い浮かばないのですが、やはりお寺や神社は保全すべき場所だと思います。川や山も良い場所だと思いますが、川辺には四季折々の花を植え、山はハイキングコース等を作り、皆楽しくハイキングできるような所があればと思います。
- 20. 神戸市立農業公園
- 21. 友清観光柿園
- 37. 友清川の上流部、わずかながらホタルが生息している。
- 52. ・地域の雰囲気が好きです。  
・柿園
- 55. 公会堂、いこいの家
- 74. 新長谷寺（観音堂）周辺、特に大楠木、もちの木保全。
- 77. 柿畑、竹やぶ 地場産業的なもの
- 78. 私有地（田、竹やぶ）
- 80. この集落全体のたたずまい。
- 84. 太陽と緑の道、その周辺の山々は残してほしい。
- 85. 新長谷寺、大歳神社、樋谷神社、秋葉神社
- 87. 観音堂ぐらい  
そういう所がないので、新しくつくるか、整備してそう人寄り場所をつくる必要がある。

問 17 この地域の中で改善してほしい場所（危険な所、景観上好ましくない所）があれば、記入してください。またその場所について、どのようにすればよいか改善策もあれば記入してください。

- 3. 証拠隠滅している恐れがあるので、家畜の便のたれ流しを徹底的に調査して欲しい。
- 13. 友清の中心地である公会堂付近とか川を隔てた右側、つまりゴルフ場側に若い人から若い人から老いた人、また小・中学校の子供が遊べる広場が出来れば見ても楽しいし目の届く範囲で安全であると思う。これは問 18 にも該当すると思います。
- 18. 集落の中に牛舎が有ることです。個人の生活がかかっていることですから皆辛抱をしておりますが何とか集落外で経営できるような方法がないでしょうか。夏にはハエや蚊で悩まされ、困っております。
- 20. 台風や大雨の時、池が決壊する恐れがある所も多く、整備してほしい。
- 21. 集落内に牛舎があるため、ハエや蛾等が多く発生して、非常に不衛生です。  
里づくりに期待をしております。
- 37. 友清川の上流部の保全を図り、ホタルの生息環境をより良くするための方策をみんなで考える。
- 49. 道幅が狭い。
- 52. 道路、川
- 57. 村の中の川をもっときれいに整備してほしい。
- 63. 64. 農道の整備

74. 神戸母里線全線開通後の友清入り口の改善, 特に信号機の設置  
81. ため池の整備

問 18 今後、地域を活性化するためには、どのようなことに取り組みばよいと考えますか。ご意見やご提案、アイデアなどあればご自由に記入してください。

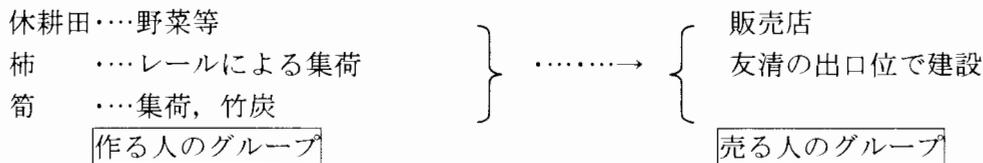
3. 緑地が多い友清なので、アスレチックパークなど木材などを取り入れた公共施設はどうでしょうか。コンクリートだけで、出来ている公園とは一味違った雰囲気でのよいのではないかと思います。
4. 子供が安心して遊べる場所（公園）などを作り、買い物ができる店を近くにつくる。
5. 春は筍、山菜狩り、夏はかぶと虫の養殖、秋は柿狩り、野菜と市民の方々との交流を
9. TVの写りが悪いため、共同アンテナを立ててはどうか。ケーブルTVの導入をも考えて欲しい。
10. ソーラーシステムを導入して欲しい。電気代を助けるためにも、家庭にソーラーパネルを付けて太陽から電気を作り、安全性を高めてはどうか。
14. 丸ヶ谷の奥に温泉源を発掘して 利用できるものであれば北側の山地に新道を作って交通ルートを開発しては  
部落有管理山林（2ヶ所で約7町）を有効に活用しては  
観光方面に進むのがよい様に思います。
18. このままでは後何年間かの間に若い人は村には居なくなるのではないかと心配しております。無理もないと思います。農業収入ではとても生活はできません。それに通勤するのに交通が不便なため、自家用車で通勤しなくてはならないようでは、毎日のことですからとても無理だと思います。農村に居ても精神的にも経済的にもゆとりのある生活ができれば若い人も村に残るのではないかと思う。
19. 地ビールをつくってより多くの人に村の事を知ってもらう。
20. 補助整備を一番に望む。
21. 現在の良い風景をそのまま残して、観光名所となる様な所を何か考えられないかと思う。昔の城跡等を復活させればどうかと思う。
37. 誰もが忌憚なく自由に意見などを言える雰囲気づくり。（後日の中傷や陰口など皆無とする）がまず地域活性化の第一歩となるのではないか。
52. ・体験農業、観光農園（柿以外に）栗やいちご狩り、ぶどう、稲 etc  
・インターネットでのホームページ開設  
・自然の家（宿泊施設等）、スパ（温泉）
63. 村の収入になるような事業を誘致。
64. //
66. 土地を有効活用するのであれば、テーマパークや今の環境を利用した農業公園のようなものを考える。インターネットなどを通して世間に宣伝すればよい。  
不良のたまり場にならないように、奥の方に小さな公園がほしい。小さな子供のあそび場がないので。
77. 1. 次世代に引継ぎができるように  
(1)田のほ場整備  
(2)河川・道路の整備……(1)との関係での整備  
(3)上・下水道の整備  
2. 柿園の集荷を楽にする設備……レールの整備
80. 活性化する必要があるかどうかよくわかりません。

- 81. 公共交通機関の充実
- 86. 子供たちが安心して遊べる公園を作ってほしいです。  
若い奥さんがふえてきたので、料理教室などをしてほしいのですが、器材（オープンレンジ、電子レンジ、スピードカッター、ミキサー、などなど）がないので、そろえてほしいです。
- 87. 温泉、公園等、金を有効に使いたい。

問 19 定年退職を迎えた方が、地域活性化のために何か取り組むとしたら、どんなことが考えられますか。ご提案やアイデアなどあればご自由にご記入ください。

3. 公共施設に従事した管理や企画など

- 14. 公共用地に一寸した広場がほしい（各種競技練習が出来れば）  
地域の美化の一例として休耕地で花の苗を作って、植栽して観光地としてレベルアップを図ることに手助けする。
- 18. 定年退職者といえばよくしたもので、気持ちはあっても身体がついていかないというのが自分がその年を迎えてつくづく感じる事です。ですから、この年になって何かをやるとしても若い人の力が必要になります。地域活性化の為に何かやりたいとは思いますが良いアイデアは思い浮かびません。ただ新しいことにばかり目をやらず昔のように大勢の子供が小さい子供を先頭に通学をする姿が見れるようなそんな村や町を望みます。若い人が喜んで住めるような町づくりをお願いします。
- 20. 温泉を掘り、みんなの憩いの家などができればいいと思う。
- 21. 定年になれば、身体がついていきませんが、今考えられる事は村を美しく整備し、観光地としてPRし、この村独特の特産物を作ることだと思う。
- 57. 年寄り、子供ともに遊べる公園がほしい。
- 74. 集落入口に共同直売所の設置して、老人会での運営（農産物、特産物）販売
- 75. 老人ができることなどあるのなら聞きたいくらい。ただでさえ、交通手段が乏しく買い物すら困難な老人のために活性化してくれ。とにかくこの村は不便である。車を持たない者には住みにくさこの上ない。
- 77. ・生産物の生産・集荷→販売（場所）の一元化



・有機栽培農法

利益の分配をどうするのが問題となる。

- 80. 一人暮らしの老人の世話、観音堂、老人憩いの家の管理  
地域の種々の行事の企画・運営
- 87. 炭づくり等（竹炭、竹酢等）  
友清の老人は100歳まで元気で生きれるように目標をもつ。  
人間目標、生きがいが必要。安心も必要だが、安心しすぎると早く死ぬ。  
村山の整備（雑木を切ってたき木づくり）  
今後どういう世の中になるかわからない（輸入ストップ、コンピューター不通）  
食物だけの自給でなくエネルギーベースでの自給も考えないといけない。

## 農家世帯主・後継者用アンケート

## 農業に関する事項

以降の質問は農家の世帯主(経営主)及び農業後継者(後継予定者含む)の方のみお答え下さい。

問20 あなたは、世帯主(農業経営者)ですか、後継者(後継予定者)ですか。

回答数 26名

- |               |    |
|---------------|----|
| 1. 世帯主(農業経営主) | 17 |
| 2. 後継者(後継予定者) | 9  |

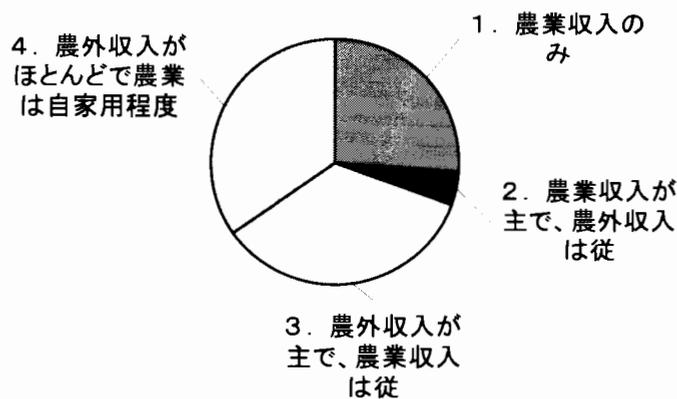
～～世帯主(経営主)の方のみお答え下さい～～～～

問21 現在、お宅の農業収入と農外収入の割合はどのようになっていますか。  
あてはまるもの1つに○印をつけてください。

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| 1. 農業収入のみ             | 6 |
| 2. 農業収入が主で、農外収入は従     | 1 |
| 3. 農外収入が主で、農業収入は従     | 8 |
| 4. 農外収入がほとんどで農業は自家用程度 | 8 |

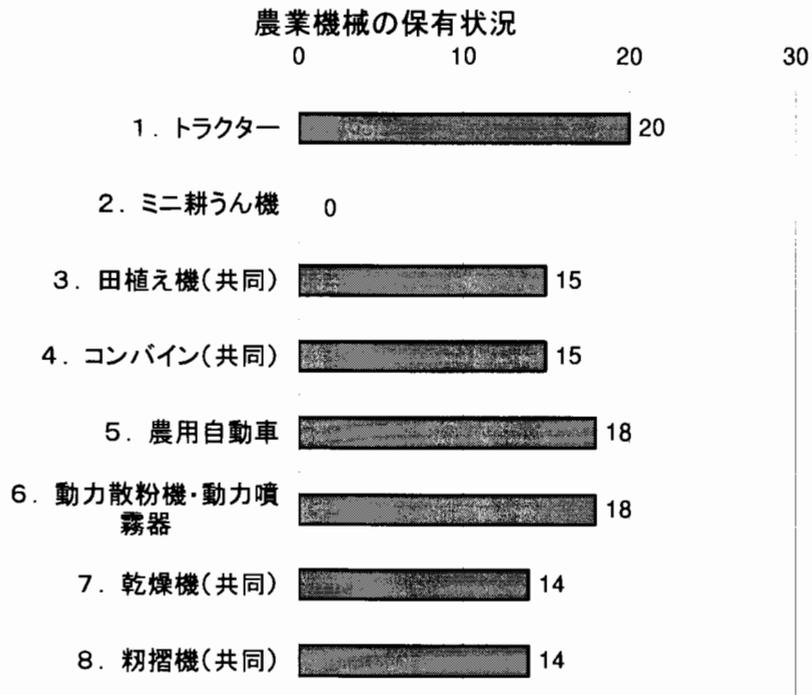
回答数 23名

## 農業収入の割合



問22 現在、お宅では、どの農業機械を所有していますか。  
所有しているもの全てに○印をつけてください。

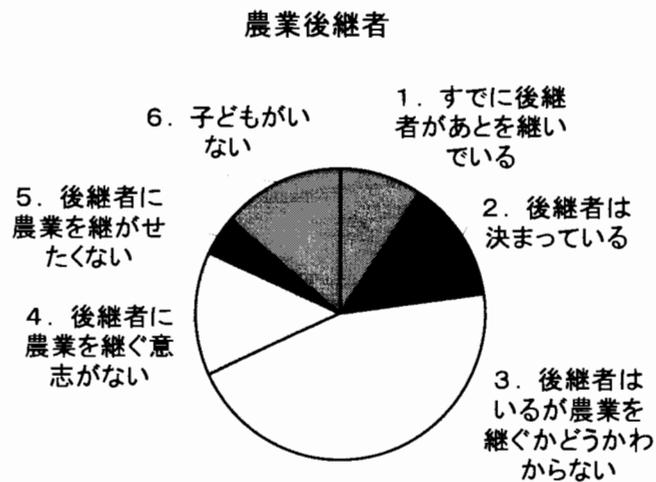
回答数 22名



問23 お宅に農業を継ぐべき農業後継者はいますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

1. すでに後継者があとを継いでいる	2
2. 後継者は決まっている	3
3. 後継者はいるが農業を継ぐかどうかわからない	10
4. 後継者に農業を継ぐ意志がない	3
5. 後継者に農業を継がせたくない	1
6. 子どもがいない	3

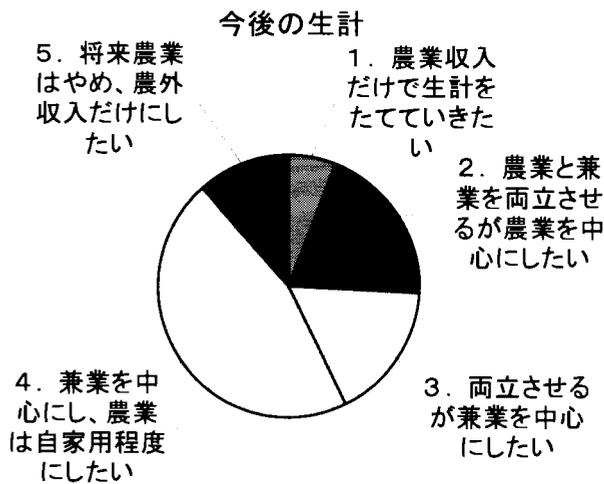
回答数 22名



～～世帯主(経営主)と農業後継者(後継予定者)の両方ともお答え下さい～～

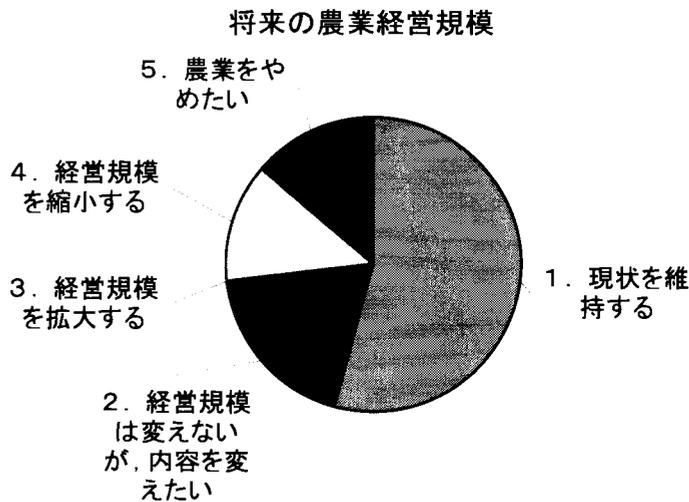
問24 今後(5年先程度)の生計はどのようにして立てていきたいと思いませんか。  
次の中から1つ選んで○印をつけてください。

- |                          |     |
|--------------------------|-----|
| 1. 農業収入だけで生計をたてていきたい     | 2   |
| 2. 農業と兼業を両立させるが農業を中心にしたい | 7   |
| 3. 両立させるが兼業を中心にしたい       | 6   |
| 4. 兼業を中心にし、農業は自家用程度にしたい  | 16  |
| 5. 将来農業はやめ、農外収入だけにしたい    | 4   |
| 回答数                      | 35名 |



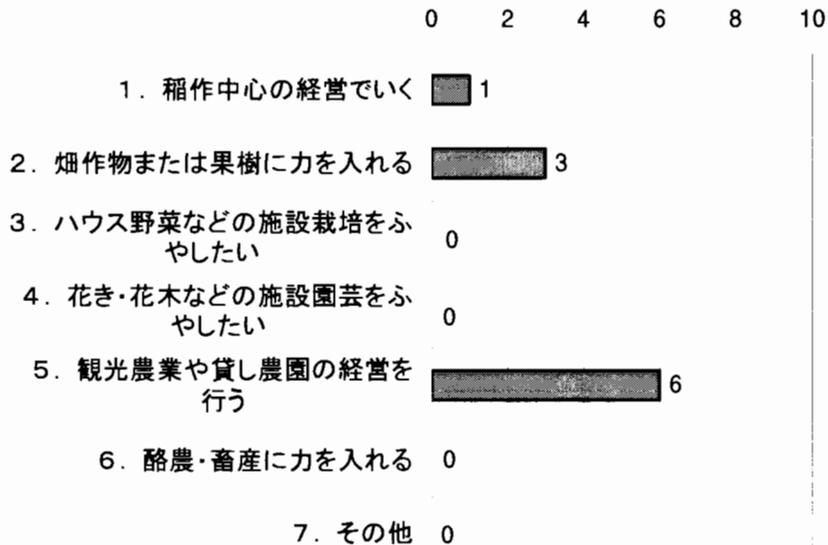
問25 将来の(5年先程度)の農業経営規模についてどのようにしたいと考えていますか。  
1つ選んで○印をつけてください。

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| 1. 現状を維持する            | 20  |
| 2. 経営規模は変えないが、内容を変えたい | 7   |
| 3. 経営規模を拡大する          | 0   |
| 4. 経営規模を縮小する          | 5   |
| 5. 農業をやめたい            | 5   |
| 回答数                   | 37名 |

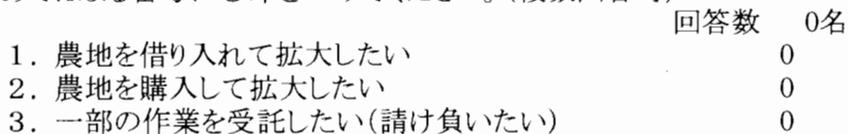


- 問25-1 問25で「2. 内容を変えたい」と答えられた方のみお答えください。  
 その場合、どんな内容に変えたいですか。あてはまる番号に○印をつけてください。  
 (複数回答可) 回答数 7名

### 変えたい経営内容



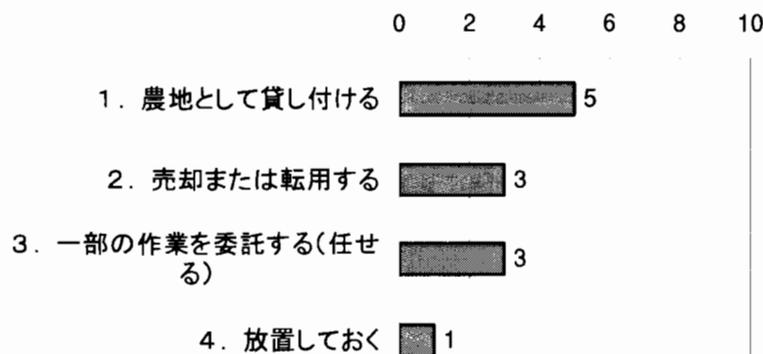
- 問25-2 問25で「3. 経営規模を拡大したい」と答えられた方のみお答えください。  
 その場合の拡大方法についてどのように考えていますか。  
 あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)



- 問25-3 問25で「4. 経営規模を縮小したい」「5. 農業をやめたい」と答えられた方のみお答えください。その場合の縮小方法についてどのように考えていますか。  
 あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)

回答数 9名

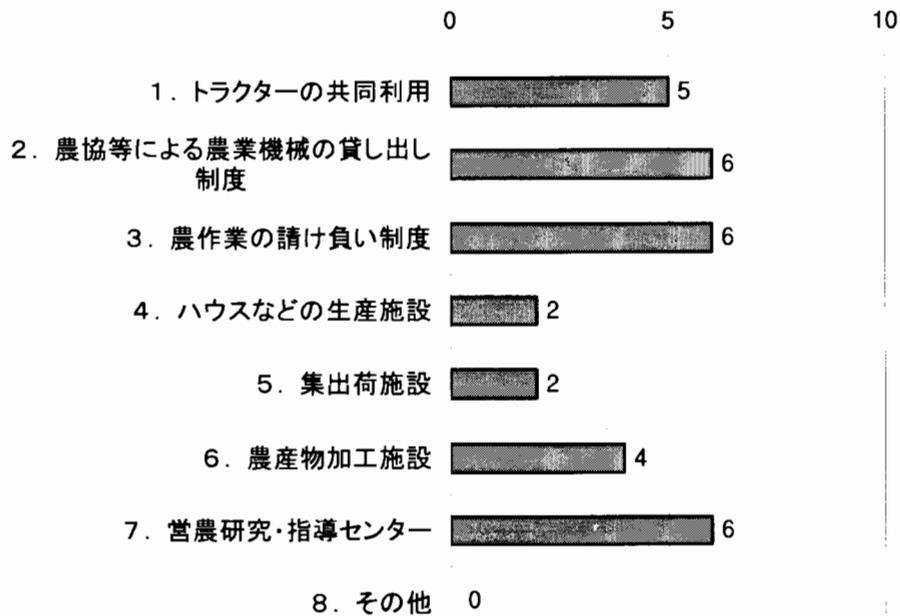
### 経営規模の縮小方法



問26 農業機械や生産施設についてどのような希望がありますか。  
あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)

回答数 21名

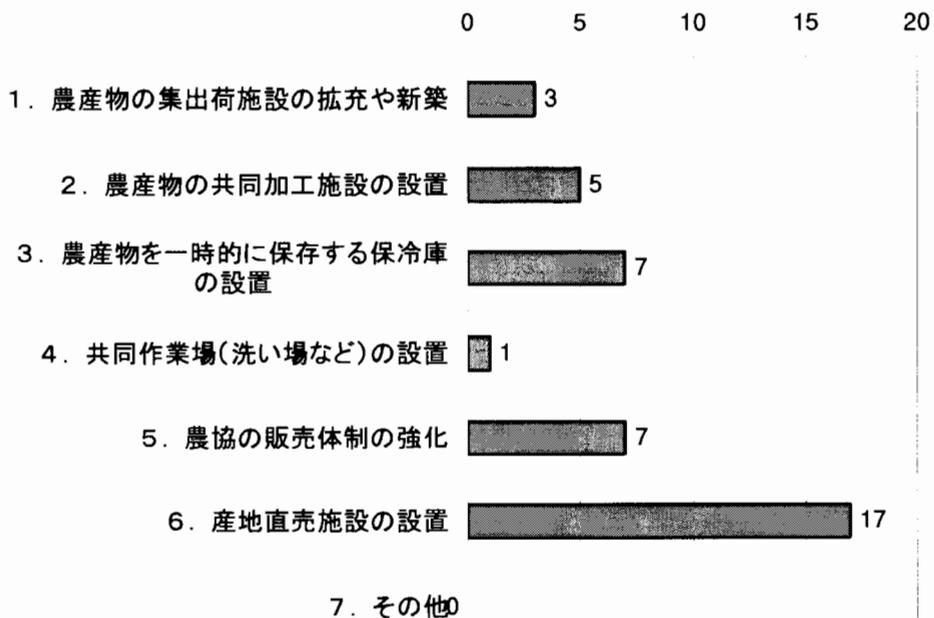
### 農業機械・生産施設の希望



問27 流通や出荷についてどのような希望がありますか。  
あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)

回答数 27名

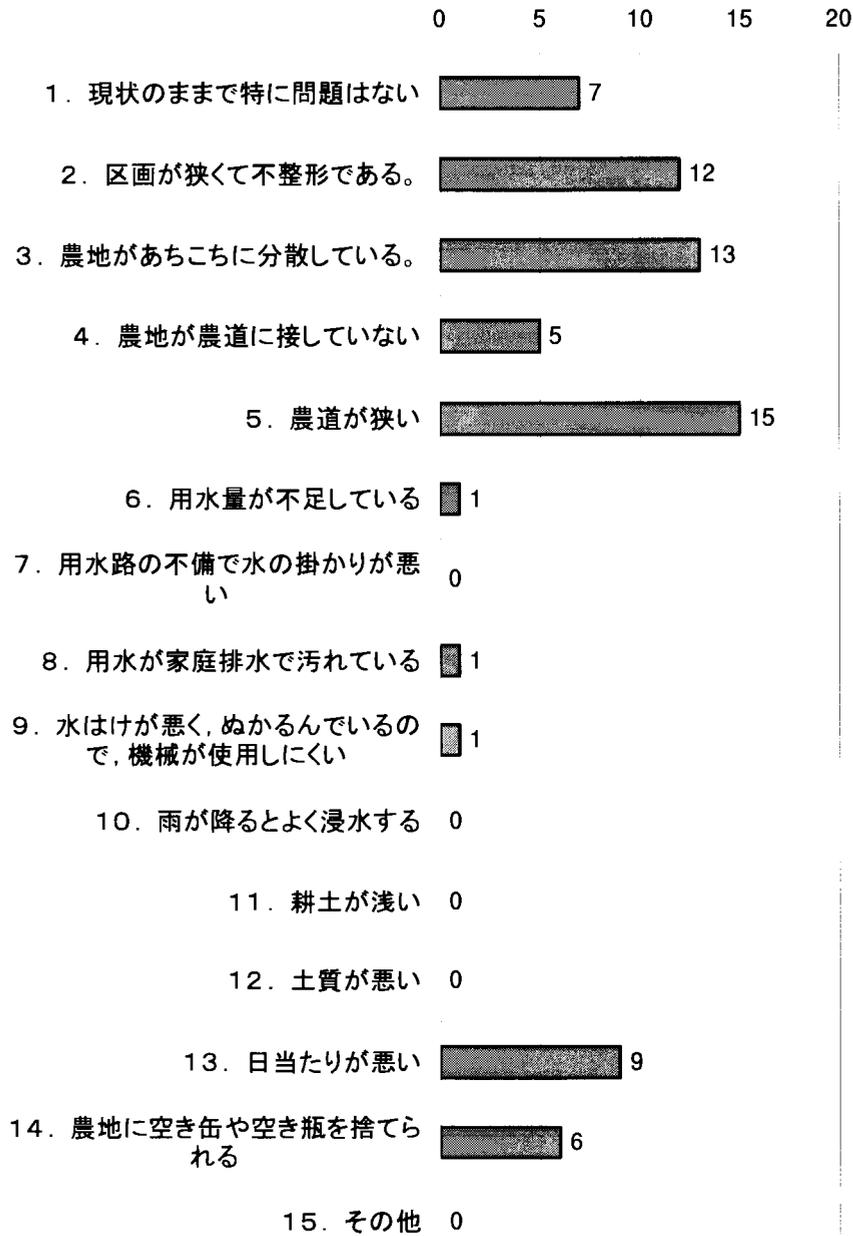
### 流通・出荷についての希望



問28 あなたの農地で日頃、困っていること、不便を感じていることは何ですか。  
 あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)

回答数 34名

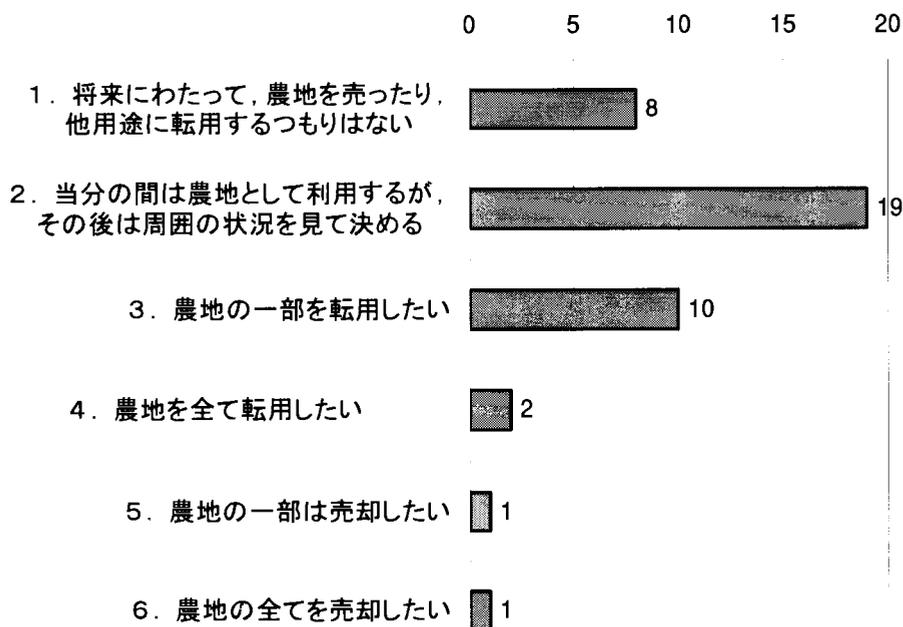
農地で困っていること



問29 あなたの所有農地の将来(10年先程度)の利用方法についてどのように考えていますか。  
 あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)

回答数 36名

将来(10年先程度)農地の利用

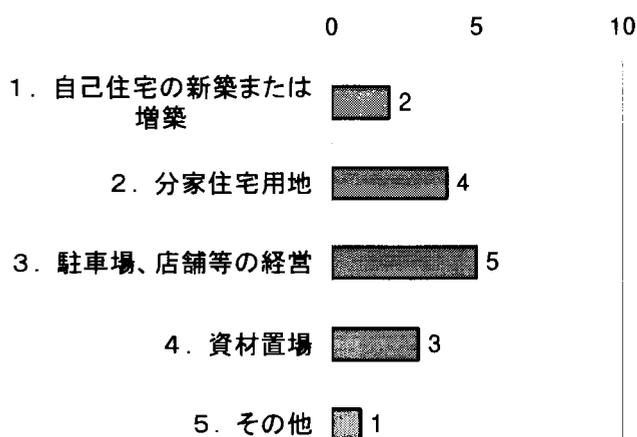


問30 問29で「3. 4. 農地を転用したい」と答えられた方のみにお尋ねします。  
 どのような用途を考えていますか。あてはまる番号全てに○印をつけ、おおよその面積をご記入ください。

※注 約1反=10a(アール)=1000m<sup>2</sup>です  
 約2反3畝=23a(アール)=2300m<sup>2</sup>です

回答数 12名

農地の転用内容



1 自己住宅	700			
2 分家住宅	200	300	5000	0.5
3 駐車場・店舗等	2500	2300	1000	
4 資材置場	2000	2500		
5 その他	1500			

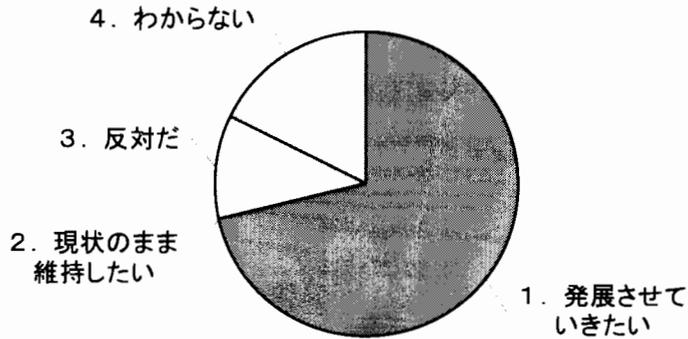
問31 貸し農園や観光農業など地区外住民との交流について、どのように考えていますか。  
 あてはまる番号それぞれに1つ〇印をつけてください。

貸し農園

1. 発展させていきたい	20
2. 現状のまま維持したい	0
3. 反対だ	3
4. わからない	5

回答数 28名

貸し農園の意向

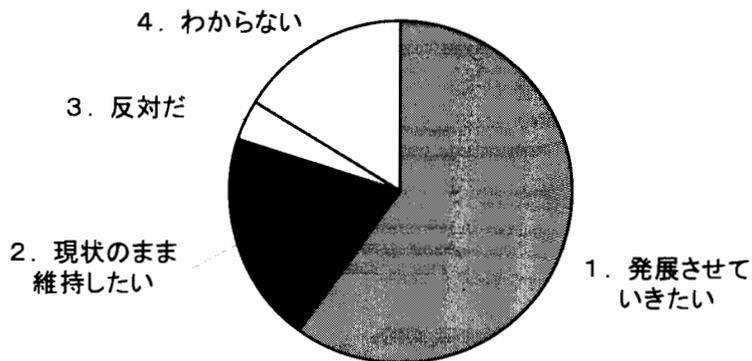


観光農業

1. 発展させていきたい	15
2. 現状のまま維持したい	5
3. 反対だ	1
4. わからない	4

回答数 25名

観光農業の意向



問 32 貸し農園や観光農業について、何かご意見やアイデアがあれば、それぞれの欄にご自由にご記入ください。

#### 貸し農園について

- 14. 良い事業ですが駐車場の確保，貸し地周辺の美化をなすべきだ。  
他所に行っても見苦しいのが現状ではないでしょうか。
- 77. 風紀上問題である
- 87. 貸し米づくり（米の作り方教室，食べ方教室）

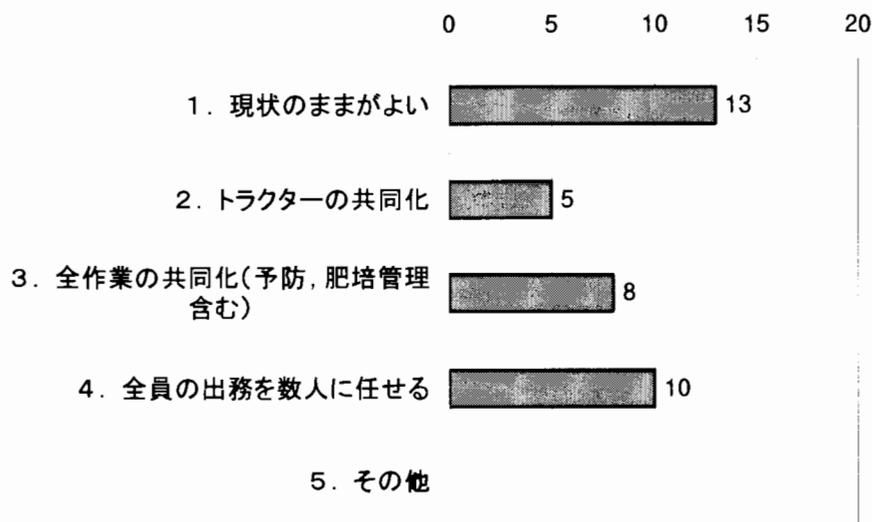
#### 観光農業について

- 14. お客様の声に耳を傾け，要望に答える努力をすべきだ。  
来客される方の目は厳しいですよ。
- 20. 加工食品などを作り，売りたい。
- 21. 現在観光園芸柿園を経営しておりますが，柿園以外にも何か観光名所がほしいと思います。  
それをしっかりPRしていけば，活性化につながると思います。
- 74. 現在，観光農業は柿狩りのみだが，今後友清の立地条件を生かし，年中観光客等地区外住民との交流を図るべき。  
例：春 わらび，筍狩り， 夏 ホタル， 秋 柿狩り，野菜等の直売
- 77. 現状維持でよいが，他の所有者との連携も視野に入れた考え方で運営することも必要か？
- 87. 柿だけでなく新しい品目の導入。柿の木のオーナー制。  
（りんご狩り，ラ・フランス，さくらんぼ等）

問33 現在、稲作生産組合により、一部の作業で共同化を行っていますが、将来的にはどのようなことが望ましいと考えますか。あてはまるものに○印をつけてください。(複数回答可)  
また、項目以外に何かご意見やご提案がございましたらご記入下さい。

回答数 30名

### 稲作生産組合の運営希望



14. 地域の保有米は確保したい。

休耕田にも稲を植え付け良質米として販売できないか？

21. 現在稲作にかぎり、一部共同でやっていますが、良い面、悪い所が色々出てきます。

個人個人が自分の意見を主張すれば、とても共同は成り立っていきません。

農業は自然相手なので計画どおりに作業は進みません。

共同化は機械代等の節約にはなりますが、人件費が高くなり時間のロスが目立ちます。

もっと効率良く作業をする方法を指導して戴きたい。

65. 共同化よりも里づくり全体の事業として考えたほうが良いと思う。

87. 最終的には数人に任せる米づくりになると思うけど、兼業、米の安価(再生産できる

価格)で、採算ベースに合わない米づくりでだれにまかせば？

また、する人間も年がいつている。

問 34 農業振興や農地の利用，農村の整備について，何かご意見やアイデアがあれば，ご自由にご記入ください。

14. 農作物の販売をされていては生活できない状況（他地域では生計を立てておられますが）で，後継者に経営をまかせても農作業をしないで（放棄）他の仕事をしたいと思います。  
当地域は独自の方法を立案して後継者に委ねなければならないと思います。  
次の世代の方々の意見が重要なポイントになると思います。
20. 農地の補助整備を望む。
21. 現在の農業経営ではとても生活が出来ません。益々若い人が農業をはなれていくと思います。  
これからは農外収入と観光園芸こうした収入を考えないと活気のある町づくりは望めないのではないかと。丁度この村は他所から来られた方には山有り，谷有り，川有り，別荘地のように映るらしいのです。住んでいる私たちもそう感じますので後は生活する収入が得られれば若い人もこの村を出て行かないと思う。
65. 友清集落の資金を有効に利用して集落の事業を考えたほうが良いと思う。
77. ほ場整備をすること。
79. 農地より今残っている山林を開発して，いろいろな施設を作っただけならよいと思います。